

# 第8節 技術・家庭

## 第1 本資料の活用について

### 1 作成の基本的な考え方

学習評価については、生徒の「生きる力」の育成を目指し、生徒一人一人の資質や能力をより確かにはぐくむようにするため、技術・家庭科の目標に照らしてその実現状況をみる評価を着実に実施することが大切である。生徒一人一人の進歩の状況や教科の目標の実現状況を的確に把握し、学習指導の改善に生かすとともに、学習指導要領に示す内容を確実に身に付けたかどうかの評価を行うことが重要である。そして、学校における教育課程全体の改善に向けた取組と効果的に結び付け、学習指導に係るPDCAサイクルの中で適切に実施するとともに、学校全体として組織的な取組を推進し、学校評価の妥当性、信頼性等を高めていくことが重要である。

本資料は、中学校学習指導要領に基づくとともに、埼玉県中学校教育課程編成要領を踏まえ、埼玉県中学校教育課程指導資料との関連や発展を考慮し、技術・家庭科における適切な評価の実施に資することを目的に作成した。生徒の実態等に応じ、「評価規準の作成のための参考資料」(平成22年11月国立教育政策研究所)等と併せて大いに活用されたい。

### 2 取り上げた内容

- |               |                        |
|---------------|------------------------|
| 第1 本資料の活用について | 第2 技術・家庭科における学習評価      |
| 1 作成の基本的な考え方  | 1 学習評価の進め方             |
| 2 取り上げた内容     | 2 各題材の評価計画の作成          |
| 3 本資料の活用にあたって | 3 各題材における観点別学習状況の評価の総括 |

### 第3 指導と評価の実際

- |                                 |                                |
|---------------------------------|--------------------------------|
| <b>事例1</b> 技術分野「Bエネルギー変換に関する技術」 | <b>事例4</b> 家庭分野「C衣生活・住生活と自立」   |
| <b>事例2</b> 技術分野「A材料と加工に関する技術」   | <b>事例5</b> 家庭分野「A家族・家庭と子どもの成長」 |
| <b>事例3</b> 技術分野「C生物育成に関する技術」    | <b>事例6</b> 家庭分野「A家族・家庭と子どもの成長」 |
|                                 | <b>事例7</b> 家庭分野 生活の課題と実践       |

### 第4 観点別学習状況の評価の総括及び評定への総括

- 1 評価から評定への考え方
- 2 観点別学習状況の評価の総括
- 3 評定への総括

### 3 本資料の活用にあたって

本資料の活用にあたっては、次の点に配慮する。

#### (1) 指導に生かす評価

実際の評価では、各学校の指導計画の中に評価計画を位置付け、指導と評価の一体化を図ることが大切である。生徒の学習状況を十分に把握し、生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価するとともに、学習過程や成果を評価し、適時に適切な評価を行い指導の改善に生かすよう工夫する。

#### (2) 目標に準拠した評価の着実な実施

生徒一人一人の学習内容の確実な定着を図るため、生徒の学習状況を分析的にとらえる観点別学習状況の評価と総括的にとらえる評定については、引き続き目標に準拠した評価として実施していくことが重要である。本資料に掲載した評価規準の設定例を活用し、各学校の指導計画に即して題材及び単位時間における評価規準の設定を工夫する。その際、それぞれの題材において観点別学習状況の評価にかかわる最適な時期や方法を整理することが重要である。これにより、評価すべき点を見落としていないかを確認できるだけでなく、必要以上に評価の機会を設けることで評価資料の収集・分析に多大な時間を要するような事態を防ぐことができ、効果的・効率的な学習評価につながる。

#### (3) 適切な評価規準の設定

技術・家庭科では、内容相互の関連を図り、題材を構成して指導することから、「題材の評価規準」は、題材の指導目標を明確にして「評価規準の作成のための参考資料」の「内容のまとめりごとの評価規準に盛り込むべき事項」及び「評価規準の設定例」を参考にして、設定することになる。その際、毎時間4観点から評価するのではなく、その時間のねらいや学習活動に照らして、いずれかの観点到重点を置くなど、評価規準を適切に設定することが大切である。したがって、3学年間を見通した年間指導計画を基に、各題材で指導する内容を明確にして評価計画を立てる必要がある。

#### (4) 多様な評価の工夫

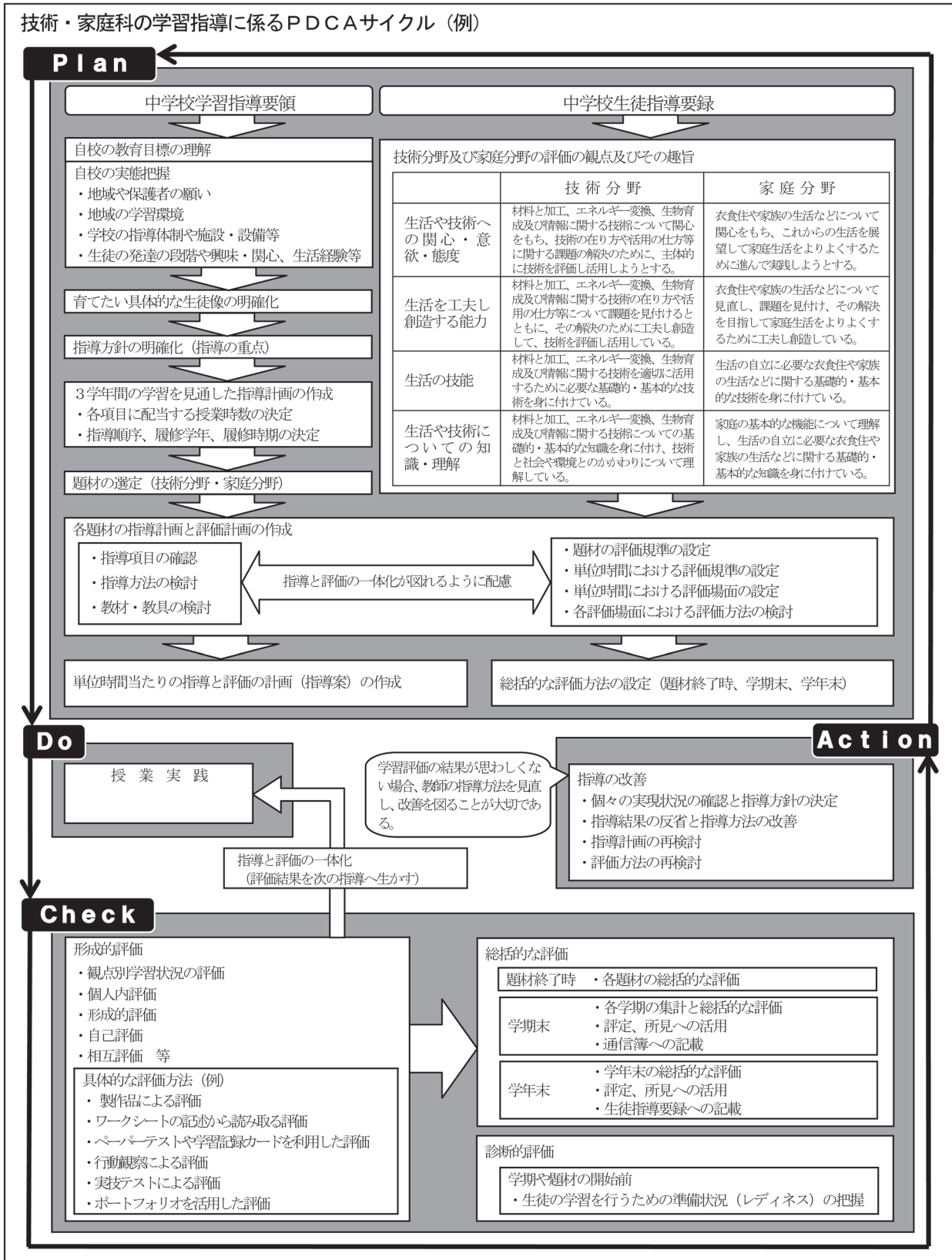
教育活動の特質や評価の目的に応じ、評価方法や評価場面、評価時期などを工夫し、評価結果の積み重ねによって生徒の成長の状況を総合的に評価することが重要である。評価場면을指導の前や指導の過程に設けたり、評価の時期を学期末や学年末だけでなく、題材や単位時間ごとに設けたり、様々な角度から継続的に評価する。また、評価場面や評価時期に応じて、製作品、ワークシート、行動観察、学習記録カード、ペーパーテスト、実技テスト、ノート、レポート、ポートフォリオなどを組み合わせ、多様な評価方法を工夫する。

## 第2 技術・家庭科における学習評価

### 1 学習評価の進め方

教師にとっての学習評価は、学習指導の問題点を明らかにし、指導の改善に役立てるという役割がある。また、生徒が自らの学習状況に気付き、その後の学習や発達・成長が促される契機となるように、生徒一人一人の学習状況を適切につかみ、個に応じた指導に努めることが大切である。

したがって、指導計画の中に評価計画を位置付け、指導と評価の一体化を図るとともに、指導方法の改善と充実に生かせるよう、以下のように学習指導に係るPDCAサイクルを確立することが重要である。



2 各題材の評価計画の作成

(1) 自校の「指導計画」及び「評価計画(枠)」等を準備する。

平成24年度入学生 技術・家庭科 3学年間を見通した指導計画													〇〇〇立〇〇〇中学校																							
学年	学期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
第1学年	技術	身のまわりの物を利用する作品をつくらう！ 【5時間】 A (1) アイ											身のまわりの物を利用する作品をつくらう！ 【2.4時間】 A (2) アイウ (3) アイウ																							
	家庭	〇ガイダンス 〇生活や技術で活用されている技術の発展と歴史											〇材料の準備と利用方法 〇材料と加工に関する技術の進歩の活用 〇調理と製法 〇器具・機械の安全の活用 〇使用目的・発注した工程 〇商品加工、組立て及び仕上げ																							
第2学年	技術	身のまわりの物を利用する作品をつくらう！ 【1.2時間】 C (2) アイ (3) ア											身のまわりの物を利用する作品をつくらう！ 【6時間】 B (1) ア																							
	家庭	〇生物の育成に関する条件と育成環境 〇生物の育成に関する技術の進歩の活用 〇植物の管理方法											1日の献立を考えた日常食の調理をしよう！ 【2.4時間】 B (1) アイ (2) アイウ (3) ア D (1)																							

平成24年度入学生 技術・家庭科 家庭分野 指導計画		〇〇〇立〇〇〇中学校	
指導事項	指導内容【配当時間】	指導上の留意点	
自分の成長と家族 A17	【題材1 深めよう技術・家庭科【1時間】】 〇ガイダンス (3学期の学習の見直し) ・家庭生活や学校生活の振り返り ・家庭分野の学習のねらいと概要 ・これからの学習を通して、自分ができるようにならないことや3年後の自分をイメージ ・自分の目標や課題の明確化	これまでの家庭生活や学校生活の振り返りや、家庭分野の学習のねらいや概要を振り返り、見直しをもたせるなどの活動を通して、意欲を高めるようにする。また、学習への期待と意欲をもつことができるようにする。	
	【題材2 1日の献立を考えた日常食の調理をしよう！【2.4時間】】 〇中学生の食生活と栄養 ・生命の維持や健康の保持を深めたり文化を伝えたりするための食の役割 ・栄養バランスがよい食事、規則正しい食事の重要性、自分の食習慣の見直し (食事簿等) ・五大栄養素の種類と働き、食物繊維と水の働き ・食料の調達 〇食品の栄養成分と日常食の献立 ・日本食の調理の仕方、食品の摂取量の目安 ・中学生の1日に必要な食品の概量 ・多量の食品を食品群で分類、計量 ・3食の献立を考えた食品の組合せを中心とした献立 (主食、主菜、副菜、汁物等の調理の組合せ) ・1日分の献立の立案	生活や技術について、生活が自分の生活について主体的に考えられるようにする。 ・食生活調べ会話などの活動を通して、生物が自分の生活について主体的に考えられるようにする。 ・家庭での食事を取り上げる場合は、生徒のプライバシーに十分配慮する。 ・調査や会話などをしたり、視聴覚教材を活用したりするなど活動を取り入れ、栄養素に関心をもたせるよう配慮する。 ・食生活については、小中学校で学習した栄養学の内容から3つの働きとの関係性を考慮して扱うようにする。 ・1日に必要な食品の概量を把握できるようにする。 ・概量の数値にとらわれないで、食事や食品の概量でとらえられるようにする。	
食事は果たす役割 B17 栄養素の種類と働き B19 食品の栄養成分 B27	〇中学生の食生活と栄養 ・生命の維持や健康の保持を深めたり文化を伝えたりするための食の役割 ・栄養バランスがよい食事、規則正しい食事の重要性、自分の食習慣の見直し (食事簿等) ・五大栄養素の種類と働き、食物繊維と水の働き ・食料の調達 〇食品の栄養成分と日常食の献立 ・日本食の調理の仕方、食品の摂取量の目安 ・中学生の1日に必要な食品の概量 ・多量の食品を食品群で分類、計量 ・3食の献立を考えた食品の組合せを中心とした献立 (主食、主菜、副菜、汁物等の調理の組合せ) ・1日分の献立の立案	食生活調べ会話などの活動を通して、生物が自分の生活について主体的に考えられるようにする。 ・家庭での食事を取り上げる場合は、生徒のプライバシーに十分配慮する。 ・調査や会話などをしたり、視聴覚教材を活用したりするなど活動を取り入れ、栄養素に関心をもたせるよう配慮する。 ・食生活については、小中学校で学習した栄養学の内容から3つの働きとの関係性を考慮して扱うようにする。 ・1日に必要な食品の概量を把握できるようにする。 ・概量の数値にとらわれないで、食事や食品の概量でとらえられるようにする。	

平成〇〇年度入学生 第〇学年 技術・家庭〔〇〇分野〕 評価計画(枠) 〇〇〇立〇〇〇中学校																																																										
(1) 題材名	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇																																																									
(2) 題材の目標	〇〇〇																																																									
(3) 題材の評価規準	<table border="1"> <thead> <tr> <th>生活や技術への関心・意欲・態度</th> <th>生活を工夫し創造する能力</th> <th>生活の技能</th> <th>生活や技術についての知識・理解</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◇</td> <td>◇</td> <td>◇</td> <td>◇</td> </tr> <tr> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>△</td> <td>△</td> <td>△</td> <td>△</td> </tr> </tbody> </table>	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解	◇	◇	◇	◇	◎	◎	◎	◎	△	△	△	△																																									
生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解																																																							
◇	◇	◇	◇																																																							
◎	◎	◎	◎																																																							
△	△	△	△																																																							
(4) 評価の計画【〇〇時間】	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="3">時間</th> <th colspan="2">生活や技術への関心・意欲・態度</th> <th colspan="2">生活を工夫し創造する能力</th> <th colspan="2">生活の技能</th> <th colspan="2">生活や技術についての知識・理解</th> </tr> <tr> <th colspan="2">◆評価規準 評価方法</th> <th colspan="2">◆評価規準 評価方法</th> <th colspan="2">◆評価規準 評価方法</th> <th colspan="2">◆評価規準 評価方法</th> </tr> <tr> <th>◎1分測定できる状況</th> <th>◎3分測定できる状況</th> <th>◎1分測定できる状況</th> <th>◎3分測定できる状況</th> <th>◎1分測定できる状況</th> <th>◎3分測定できる状況</th> <th>◎1分測定できる状況</th> <th>◎3分測定できる状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">ねらい・学習活動【標準項目】</td> <td colspan="2">△努力を要する生徒への指導の手立て</td> <td colspan="2">△努力を要する生徒への指導の手立て</td> <td colspan="2">△努力を要する生徒への指導の手立て</td> <td colspan="2">△努力を要する生徒への指導の手立て</td> </tr> <tr> <td>◇</td> <td>◇</td> <td>◇</td> <td>◇</td> <td>◇</td> <td>◇</td> <td>◇</td> </tr> <tr> <td></td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td></td> <td>△</td> <td>△</td> <td>△</td> <td>△</td> <td>△</td> <td>△</td> <td>△</td> </tr> </tbody> </table>	時間	生活や技術への関心・意欲・態度		生活を工夫し創造する能力		生活の技能		生活や技術についての知識・理解		◆評価規準 評価方法		◆評価規準 評価方法		◆評価規準 評価方法		◆評価規準 評価方法		◎1分測定できる状況	◎3分測定できる状況	◎1分測定できる状況	◎3分測定できる状況	◎1分測定できる状況	◎3分測定できる状況	◎1分測定できる状況	◎3分測定できる状況	ねらい・学習活動【標準項目】	△努力を要する生徒への指導の手立て		△努力を要する生徒への指導の手立て		△努力を要する生徒への指導の手立て		△努力を要する生徒への指導の手立て		◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		△	△	△	△	△	△	△
時間	生活や技術への関心・意欲・態度		生活を工夫し創造する能力		生活の技能		生活や技術についての知識・理解																																																			
	◆評価規準 評価方法		◆評価規準 評価方法		◆評価規準 評価方法		◆評価規準 評価方法																																																			
	◎1分測定できる状況	◎3分測定できる状況	◎1分測定できる状況	◎3分測定できる状況	◎1分測定できる状況	◎3分測定できる状況	◎1分測定できる状況	◎3分測定できる状況																																																		
ねらい・学習活動【標準項目】	△努力を要する生徒への指導の手立て		△努力を要する生徒への指導の手立て		△努力を要する生徒への指導の手立て		△努力を要する生徒への指導の手立て																																																			
	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇																																																			
	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎																																																			
	△	△	△	△	△	△	△																																																			

(2) 「指導計画」に準じて「評価計画(枠)」に「入学年度」「学年」「分野」「題材名」「題材の目標」等を記入する。

(3) 「題材の目標」に対応した「題材の評価規準」を、それぞれ4観点について設定する。  
 その際、「評価規準の作成のための参考資料」の「内容のまとめごとの評価規準に盛り込むべき事項」及び「評価規準の設定例」を参考にし、各学校の実態に応じた評価規準を設定できるように配慮する。

〔国立教育政策研究所の参考資料〕〈家庭分野 内容B(1)〉

【「(1) 中学生の食生活と栄養」の評価規準に盛り込むべき事項】

生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
中学生の食生活と栄養について関心をもって学習活動に取り組み、食生活をよりよくしようとしている。	中学生の食生活と栄養について課題を見付け、その解決を目指して工夫している。	中学生の食生活と栄養に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。	中学生の食生活と栄養について理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。

平成24年度入学生 第1学年 技術・家庭〔家庭分野〕 評価計画		〇〇〇立〇〇〇中学校																								
(1) 題材名	「1日の献立を考えた日常食の調理をしよう！」【B(1)アイ(2)アイウ(3)ア】【D(1)アイ】																									
(2) 題材の目標	日常食の献立作成や調理などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、中学生の栄養と調理についての基礎的・基本的な知識及び技術を習得する。これらの生活を展望して、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。																									
(3) 題材の評価規準	<table border="1"> <thead> <tr> <th>生活や技術への関心・意欲・態度</th> <th>生活を工夫し創造する能力</th> <th>生活の技能</th> <th>生活や技術についての知識・理解</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中学生の食生活と栄養について関心をもって学習活動に取り組み、食生活をよりよくしようとしている。</td> <td>中学生の食生活と栄養について課題を見付け、その解決を目指して工夫している。</td> <td>中学生の食生活と栄養に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。</td> <td>中学生の食生活と栄養について理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。</td> </tr> </tbody> </table>	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解	中学生の食生活と栄養について関心をもって学習活動に取り組み、食生活をよりよくしようとしている。	中学生の食生活と栄養について課題を見付け、その解決を目指して工夫している。	中学生の食生活と栄養に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。	中学生の食生活と栄養について理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>生活や技術への関心・意欲・態度</th> <th>生活を工夫し創造する能力</th> <th>生活の技能</th> <th>生活や技術についての知識・理解</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日常食の献立と食品の選び方について関心をもって学習活動に取り組み、食生活をよりよくしようとしている。</td> <td>日常食の献立と食品の選び方について課題を見付け、その解決を目指して工夫している。</td> <td>食品の選び方に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。</td> <td>日常食の献立と食品の選び方について基礎的・基本的な知識を身に付けている。</td> </tr> <tr> <td>日常食の調理について関心をもって学習活動に取り組み、食生活をよりよくしようとしている。</td> <td>日常食の調理について課題を見付け、その解決を目指して工夫している。</td> <td>日常食の調理に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。</td> <td>日常食の調理について理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。</td> </tr> <tr> <td>家庭生活と消費について関心をもって学習活動に取り組み、消費生活をよりよくしようとしている。</td> <td>家庭生活と消費について課題を見付け、その解決を目指して工夫している。</td> <td>家庭生活と消費に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。</td> <td>家庭生活と消費について理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。</td> </tr> </tbody> </table>	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解	日常食の献立と食品の選び方について関心をもって学習活動に取り組み、食生活をよりよくしようとしている。	日常食の献立と食品の選び方について課題を見付け、その解決を目指して工夫している。	食品の選び方に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。	日常食の献立と食品の選び方について基礎的・基本的な知識を身に付けている。	日常食の調理について関心をもって学習活動に取り組み、食生活をよりよくしようとしている。	日常食の調理について課題を見付け、その解決を目指して工夫している。	日常食の調理に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。	日常食の調理について理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。	家庭生活と消費について関心をもって学習活動に取り組み、消費生活をよりよくしようとしている。	家庭生活と消費について課題を見付け、その解決を目指して工夫している。	家庭生活と消費に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。	家庭生活と消費について理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。
生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解																							
中学生の食生活と栄養について関心をもって学習活動に取り組み、食生活をよりよくしようとしている。	中学生の食生活と栄養について課題を見付け、その解決を目指して工夫している。	中学生の食生活と栄養に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。	中学生の食生活と栄養について理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。																							
生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解																							
日常食の献立と食品の選び方について関心をもって学習活動に取り組み、食生活をよりよくしようとしている。	日常食の献立と食品の選び方について課題を見付け、その解決を目指して工夫している。	食品の選び方に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。	日常食の献立と食品の選び方について基礎的・基本的な知識を身に付けている。																							
日常食の調理について関心をもって学習活動に取り組み、食生活をよりよくしようとしている。	日常食の調理について課題を見付け、その解決を目指して工夫している。	日常食の調理に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。	日常食の調理について理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。																							
家庭生活と消費について関心をもって学習活動に取り組み、消費生活をよりよくしようとしている。	家庭生活と消費について課題を見付け、その解決を目指して工夫している。	家庭生活と消費に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。	家庭生活と消費について理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。																							
(4) 評価計画【2.4時間】	<table border="1"> <thead> <tr> <th>生活や技術への関心・意欲・態度</th> <th>生活を工夫し創造する能力</th> <th>生活の技能</th> <th>生活や技術についての知識・理解</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◇</td> <td>◇</td> <td>◇</td> <td>◇</td> </tr> <tr> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>△</td> <td>△</td> <td>△</td> <td>△</td> </tr> </tbody> </table>			生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解	◇	◇	◇	◇	◎	◎	◎	◎	△	△	△	△							
生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解																							
◇	◇	◇	◇																							
◎	◎	◎	◎																							
△	△	△	△																							

〔国立教育政策研究所の参考資料〕〈家庭分野 内容B(2)〉

【「(2) 日常食の献立と食品の選び方」の評価規準に盛り込むべき事項】

生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
日常食の献立と食品の選び方について関心をもって学習活動に取り組み、食生活をよりよくしようとしている。	日常食の献立と食品の選び方について課題を見付け、その解決を目指して工夫している。	食品の選び方に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。	日常食の献立と食品の選び方について理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。

〔国立教育政策研究所の参考資料〕〈家庭分野 内容D(1)〉

【「(1) 家庭生活と消費」の評価規準に盛り込むべき事項】

生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
家庭生活と消費について関心をもって学習活動に取り組み、消費生活をよりよくしようとしている。	家庭生活と消費について課題を見付け、その解決を目指して工夫している。	家庭生活と消費に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。	家庭生活と消費について理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。



- (4) 「指導計画」に準じて「評価計画」に「時間」と「ねらい・学習活動」を記入する。  
 その際、下記に示すように、単位時間全体にかかわって、表記している内容と、指導項目ごとの内容を区別して記入すると分かりやすくなる。

【評価計画】		【指導計画】	
時間	ねらい・学習活動【指導項目】	指導事項	指導内容
15 5 24	○基礎的な日常食の調理ができる。【B(3)ア】 ○安全と衛生に留意した食品の取扱いと調理用具等の適切な取扱い及び管理ができる。【B(3)ア】 ①調理室や調理用具の使い方を ・切り方の実技テスト ②肉・野菜を中心とした調理の計画を立て、実習する。 ・ハンバーグ、しょうが焼き、トマト煮等(煮る、焼く、炒める等) ・肉と組み合わせてよく用いられる野菜の基礎的な日常食の調理 ③魚・野菜を中心とした調理の計画を立て、実習する。 ・蒲焼き、煮付け、ムニエル等(煮る、焼く、炒める等) ・魚と組み合わせてよく用いられる野菜の基礎的な日常食の調理	基礎的な日常食の調理【B(3)ア】 食品や調理用具等の適切な管理【B(3)ア】	○日常食の調理 ・切り方実技テスト ・肉(ハンバーグ、しょうが焼き、トマト煮等)、魚(蒲焼き、煮付け、ムニエル等)、野菜(肉や魚と組み合わせる)を中心とした日常よく用いられる食品の基礎的な日常食の調理 ・調理動作(洗、方、切り方)、加熱調理(煮る、焼く、炒める)、調味、盛り付け、配膳、後片付け ○安全と衛生に留意した食品の取扱いと調理用具の適切な取扱い及び管理(調理室の使い方、調理用具の使い方)

①②③等の記号を文頭に付けると、「単位時間における評価規準」と関連付ける時に見やすい表記となる。

- (5) 「評価規準の作成のための参考資料」の「評価規準の設定例」を参考にしながら、「単位時間における評価規準」と「おおむね満足できる」状況を設定するとともに適切な評価方法を設定する。

【評価計画】		【国立教育政策研究所の参考資料】(家庭分野 内容B(3))			
生活の技能 ◆評価基準 (評価方法) ◎十分満足できる状況      ○おおむね満足できる状況 △努力を要する生徒への指導の手立て		生活や技術への関心・意欲・態度	生活を夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
◆調理の目的や食材に合った基本的な調理操作ができる。 ・洗、方、切り方・加熱調理(煮る、焼く、炒める)・調味・盛り付け・配膳・後片付け ◆安全と衛生に留意し、食品や調理器具等の適切な管理ができる。 ・魚や肉などの生の食品・ふきん、まな板、包丁などの調理用具・調理用熱源 (実技テスト・観察)		・日常食の調理に関心をもち、調理技術を習得しようとしている。	・基礎的な日常食の調理について、調理に必要な手順や時間を考えて計画したり、食品の調理上の性質を生かした調理を工夫したりしている。	・調理の目的や食材に合った基本的な調理操作ができる。 ・洗、方、切り方 ・加熱調理(煮る、焼く、炒める) ・調味 ・盛り付け ・配膳 ・後片付け	・食品の調理上の性質について理解している。 ・加熱調理と調味の要点について理解している。
○①～③目的や食材に応じて、肉・魚・野菜を使い、洗、方、切り方、加熱調理、調味、盛り付け、配膳、後片付けができる。 ①～③肉・魚・野菜などの生の食品、ふきん、まな板、包丁などの調理用具、調理用熱源について、安全と衛生に留意し、適切に取扱い実習できる。		※中学校学習指導要領解説〔家庭分野 内容B(3)ア〕 調理用具については、調理実習に用いる用具を中心に正しい使い方を知り、安全に取り扱うことができるようにする。特に、小学校での学習を踏まえ、ふきんやまな板の衛生的な取扱いや包丁などの刃物の安全な取扱いができるようにする。			

- (6) 「おおむね満足できる」状況から「十分満足できる」状況を設定する。

「ねらい・学習活動」に対応する記号を文頭に付けると、関連が分かりやすい。

【評価計画】		◎十分満足できる状況	○おおむね満足できる状況
安全や衛生にかかわる内容については、◎「十分満足できる」状況と○「おおむね満足できる」状況が、同じ表現となることも考えられる。	◎①～③目的や食材、時間に応じて、肉・魚・野菜を使い、洗、方、切り方、加熱調理、調味、盛り付け、配膳、後片付けができるとともに日常の実践につなげられる。 ①～③肉・魚・野菜などの生の食品、ふきん、まな板、包丁などの調理用具、調理用熱源について、安全と衛生に留意し、適切に取扱い実習できる。	○①～③目的や食材に応じて、肉・魚・野菜を使い、洗、方、切り方、加熱調理、調味、盛り付け、配膳、後片付けができる。 ①～③肉・魚・野菜などの生の食品、ふきん、まな板、包丁などの調理用具、調理用熱源について、安全と衛生に留意し、適切に取扱い実習できる。	

- (7) 指導と評価の一体化が進められるように、「努力を要する」状況と判断される生徒への指導の手立てを設定する。

△「努力を要する」状況の生徒への指導の手立ては、学習活動における生徒への具体的な働きかけなどについて記述する。

【評価計画】
△①～③教科書や資料から手順や切り方を確認させる。 △形だけでできていても手順や切り方の過程が違っている場合、説明を繰り返して、実習に取り組ませる。 △グループをまわり、個別指導する。










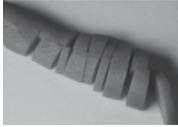
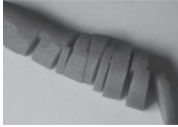
- (8) 「単位時間における評価規準」に適した評価場面・評価方法を検討する。  
 例えば、調理操作の切り方を評価する場合には、実技テストを実施したり、調理実習の際に観察したりするなどして、評価を積み重ねていくことも考えられる。

**【例】「生活の技能」に関して、「調理の目的や食材に合った基本的な調理操作ができる。(切り方)」についての状況を評価する。**

評価場面 1	実技テストの結果を記録する。	実技テスト
評価場面 2	肉・野菜を中心とした調理の実習時の状況を観察する。	観 察
評価場面 3	魚・野菜を中心とした調理の実習時の状況を観察する。	観 察

- (9) 具体的な評価方法を検討する。  
 評価結果に応じた具体的な指導の手立てについて検討し、それぞれの生徒に応じた適切な指導を行う。その際、△「努力を要する」状況と判断される生徒への手立ては、必ず事前に検討しておく。また、必要に応じて○「おおむね満足できる」状況と判断される生徒を◎「十分満足できる」状況とする手立ても検討しておく。

**【例】切り方の技能の見取り方**

包丁の持ち方と手のそえ方	○おおむね満足できる状況		△努力を要する状況	
	包丁の柄をしっかり握ることができる。 	人差し指をみねにそって持つことができる。 	柄の端を持っている。柄を逆手に持っている。 	
	指先を丸めて、包丁にそわせ、材料をしっかり押さえることができる。 		指先が伸びている。 	
皮のむき方	◎十分満足できる状況		△努力を要する状況	
	利き手の親指を皮の上に置き、包丁の刃を親指の方へすべらせるようにして、食材に合った厚みで、設定時間内にむくことができる。 	利き手の親指を皮の上に置き、包丁の刃を親指の方へすべらせるようにしてむくことができる。 	材料を持たずに切ったり、刃を外側に向けて、皮をむいたりしている。利き手の親指を包丁に置いたまま、動かさない。 	
材料の切り方	◎十分満足できる状況		△努力を要する状況	
	調理の条件に合わせ、厚さ・形が均等で、設定時間内に切るすることができる。 	調理の条件に合わせ、大きさを揃えて切るすることができる。 	調理の条件に合わせた切り方になっていない。 	

### 3 各題材における観点別学習状況の評価の総括

下の集計表(補助簿)の例では、縦軸に時間、指導事項、学習活動を記述する。また、横軸には生徒の氏名を記載し、該当欄に◎○△などの評価を記入する。そして、題材ごとの総括的な評価を算出する。

**【例】「題材7 計測して制御するためのプログラムをつくろう！」～ 題材の観点別学習状況評価の総括 集計表 ～**

時間	指導事項	学 習 活 動	1 番 ▽▽さん			2 番 △△さん			3 番 □□さん				
			関心意欲態度	工夫創造	技能	知識理解	関心意欲態度	工夫創造	技能	知識理解	関心意欲態度	工夫創造	技能
1～2	1 計測・制御の仕組みと働き【D(3)ア】	①コンピュータ制御に必要な機能を知る。				◎							
		②どのようにして、回りの状況をコンピュータに感知させるのかを知る。				◎							
		③目的にあった仕事をするための情報の処理や判断の仕方について考える。				◎			△				
3～8	2 プログラムの基本とコンピュータによる計測・制御【D(3)イ】	①プログラムのはたらきについて調べる。	◎				◎						
		②目的にあった仕事の手順を考える。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	◎
		③自分が考えた手順をもとに、目的に合った動きとなるようにプログラムを工夫する。	◎	△	◎		◎	◎	◎		△	△	◎
		④生活の中で、様々な機器にコンピュータや自動化するためのプログラムが使われ、制御されていることを知る。				◎				◎			
9	3 わたしたちの生活と計測・制御【D(1)エ】	①動画や写真から、産業の中で使われているロボットについて知る。				◎				◎			
		②身の回りで使われている計測・制御の技術には、他にどのようなものがあるかを考える。	◎				◎				◎		
題材の観点別学習状況の評価の総括			A	B	A	A	A	B	B	B	C	B	

◎：十分満足できる状況 ○：おおむね満足できる状況 △：努力を要する状況

### 第3 指導と評価の実際

#### 1 事例1 技術分野「Bエネルギー変換に関する技術」

(1) 題材名

「エネルギー変換を利用したインテリアをつくろう！」 【B(1)アイウ(2)アイ】

(2) 題材の目標

エネルギー変換を利用したインテリアの製作を通して、エネルギー変換に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深め、技術を適切に評価し活用する能力と態度を育成する。

(3) 題材の評価規準

生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力
<ul style="list-style-type: none"> <li>よりよい社会を築くために、エネルギー変換に関する技術を適切に評価し活用しようとしている。</li> <li>エネルギー変換に関する技術にかかわる倫理観を身に付け、知的財産を創造・活用しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>よりよい社会を築くために、エネルギー変換に関する技術を適切に評価し活用している。</li> <li>使用目的や使用条件に即して製作品の機能と構造を工夫している。</li> </ul>

(4) 評価計画【24時間】

時間	ねらい・学習活動【指導項目】	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力															
		◆評価規準（評価方法）	◆評価規準（評価方法）															
		◎十分満足できる状況 ○おおむね満足できる状況 △努力を要する生徒への指導の手立て	◎十分満足できる状況 ○おおむね満足できる状況 △努力を要する生徒への指導の手立て															
1 ～ 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○動力を伝える機構やクランクなど、目的とする動きに変換する動力伝達の仕組みを知る。【B(1)ア】</li> <li>①リンクの支点や固定する部分を考察する。</li> <li>②動力伝達のなかだちをする部分の工夫を調べる。</li> <li>③一定の動きを作り出す機構を考察する。</li> </ul>	<p>B(2)アの項目の「生活や技術への関心・意欲・態度」の評価規準「技術にかかわる倫理観」及び「新しい発想を生み出し活用しようとする態度」は、学習指導要領の「内容の扱い(5)」に基づきこの項目で例示したものである。これらは、指導する場面が指定されていないため、題材の構成によって他の項目で指導及び評価することも考えられる。</p>	<p>◆◎○△の各記号については、各事例で示す指導案等にも同様の意味で表記してある。</p> <p>◆評価規準（評価方法）の設定例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎「十分満足できる」と判断される状況</li> <li>○「おおむね満足できる」と判断される状況</li> <li>△「努力を要する」と判断される状況の生徒への指導の手立て</li> </ul>															
5 ～ 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>○電気エネルギーの変換方法とそれらを利用した電気機器について知る。【B(1)ア】</li> <li>①エネルギーの変換、制御、利用について調べる。</li> </ul>																	
7 ～ 10	<ul style="list-style-type: none"> <li>○製作品の設計の手順について知り、諸条件を踏まえた、自分なりの構想をまとめ、構想図に表すことができる。【B(2)ア】</li> <li>①製作品の使用目的や使用条件を考え、電気を光、熱、動力に換える仕組みを選択する。</li> <li>②光、熱、動力、音などのエネルギーを利用したインテリアの構想を練る。</li> <li>③回路図を用いた構想の表し方を知り、構想図に表す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆省エネルギーや使用者の安全などに配慮してエネルギー変換を利用したインテリアの設計・製作をしようとしている。</li> <li>◆新しい発想を生み出し活用しようとしている。（観察・学習記録表）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆自分が製作するインテリアの使用目的や使用条件を明確にし、環境的及び経済的側面などから設計要素を比較・検討した上で、製作品に適したエネルギー変換方法や力の伝達の仕組み、構造や電気回路などを決定している。（観察・ワークシート・ペーパーテスト）</li> </ul>															
		<ul style="list-style-type: none"> <li>◎①自分が製作するインテリアの使用条件を踏まえ、最適な省エネルギーの方法や使用者の安全などを配慮して設計・製作をしようとしている。</li> <li>◎③使用目的や使用条件、環境に配慮した新しい発想を自ら生み出し、自分が製作するインテリアに活用しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎②③自分が製作するインテリアの使用目的や使用条件を明確にし、環境的及び経済的側面や自分の生活面などから設計要素を比較・検討した上で、製作品に最適なエネルギー変換方法や力の伝達の仕組み、適切な構造や電気回路などを決定している。</li> <li>○②③自分が製作するインテリアの使用目的や使用条件を明確にし、自分の生活面から設計要素を検討した上で、製作品に適したエネルギー変換方法や力の伝達の仕組み、構造などを決定している。</li> </ul>															
		<ul style="list-style-type: none"> <li>△①机間指導で個別に言葉かけを行ったり、学習記録表へコメントを記入したりすることによって、製作品の構想のヒントを与える。</li> <li>△③環境的及び経済的側面の具体例を示し、自分が製作するインテリアにどのように活用できるかを考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>△②③選択・決定のヒントとなるよう既製品の優れた点や参考となる類似の具体物を提示するとともに、個別にアドバイスを行う。</li> </ul>															
11 ～ 12	<ul style="list-style-type: none"> <li>○製作品の基本的な構造を知り、保守点検と事故防止ができる。【B(1)イ】</li> <li>①基本的な構造と保守点検の仕方を知り、安全装置を用いた事故防止ができる。</li> </ul>	<p>単位時間ごとの「おおむね満足できる」と判断される状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>生活や技術への関心・意欲・態度</th> <th>生活を工夫し創造する能力</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7</td> <td>○自分が製作するインテリアの使用条件を踏まえ、使用者の安全を配慮して設計・製作しようとしている。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td></td> <td>○自分が製作するインテリアの使用目的や使用条件を明確にし、自分の生活面から設計要素を検討した上で、製作品に適したエネルギー変換方法や力の伝達の仕組みを選択している。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td></td> <td>○選択したエネルギーの変換方法や力の伝達の仕組みを基に製作するインテリアの構想図を表し、構造などを決定している。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>○自分が製作するインテリアに新しい発想を加え活用しようとしている。</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	7	○自分が製作するインテリアの使用条件を踏まえ、使用者の安全を配慮して設計・製作しようとしている。		8		○自分が製作するインテリアの使用目的や使用条件を明確にし、自分の生活面から設計要素を検討した上で、製作品に適したエネルギー変換方法や力の伝達の仕組みを選択している。	9		○選択したエネルギーの変換方法や力の伝達の仕組みを基に製作するインテリアの構想図を表し、構造などを決定している。	10	○自分が製作するインテリアに新しい発想を加え活用しようとしている。	
	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力																
7	○自分が製作するインテリアの使用条件を踏まえ、使用者の安全を配慮して設計・製作しようとしている。																	
8		○自分が製作するインテリアの使用目的や使用条件を明確にし、自分の生活面から設計要素を検討した上で、製作品に適したエネルギー変換方法や力の伝達の仕組みを選択している。																
9		○選択したエネルギーの変換方法や力の伝達の仕組みを基に製作するインテリアの構想図を表し、構造などを決定している。																
10	○自分が製作するインテリアに新しい発想を加え活用しようとしている。																	
13 ～ 22	<ul style="list-style-type: none"> <li>○製作品の調整方法を知り、製作品の組立・調整・点検ができる。【B(2)イ】</li> <li>①作業工程表を作成する。</li> <li>②製作品の組立てを行う。</li> <li>③製作品の調整方法を知り、調整・点検を行う。</li> </ul>																	



<p>生活の技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機器の保守点検と事故防止ができる。</li> <li>・製作品の組立て・調整や点検ができる。</li> </ul>	<p>生活や技術についての知識・理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギーの変換方法や力の伝達の仕組みについての知識を身に付け、エネルギー変換に関する技術と社会や環境とのかかわりについて理解している。</li> <li>・エネルギー変換に関する技術を利用した製作品の設計・製作・調整についての知識を身に付けている。</li> </ul>
--	---

<p>生活の技能</p> <p>◆評価規準（評価方法）</p> <p>◎十分満足できる状況      ○おおむね満足できる状況</p> <p>△努力を要する生徒への指導の手立て</p>	<p>生活や技術についての知識・理解</p> <p>◆評価規準（評価方法）</p> <p>◎十分満足できる状況      ○おおむね満足できる状況</p> <p>△努力を要する生徒への指導の手立て</p>
<p>◆評価規準は「国立教育政策研究所の評価規準の作成のための参考資料」の「内容のまとめりごとの評価規準に盛り込むべき事項」及び「評価規準の設定例」を基にしている。題材の取り扱う内容に応じて具体的な表記にしたり、複数の評価規準を組み合わせて1つの評価規準にしたりする。</p>	<p>◆力や運動を伝達する仕組みの特徴や共通部品についての知識を身に付けている。（観察・ワークシート）</p> <p>◎①②③身近に利用されている歯車やカム機構、リンク機構などの仕組みや特徴について具体例を挙げて説明することができる。</p> <p>○①②③自分が製作するインテリアに利用されている歯車やカム機構などの仕組みや特徴について説明することができる。</p> <p>△①②③歯車やカム機構などの具体物を示しながら個別に指導したり、ワークシートへコメントを記入させたりするなどして学習した内容を再度振り返らせる。</p> <p>◆社会で利用されている機器等における、エネルギーの変換、制御、利用についての知識を身に付けている。（観察・ワークシート）</p> <p>◎①社会で利用されている機器等における、エネルギーの変換、制御、利用について、具体例を挙げて説明することができる。</p> <p>○①自分が製作するインテリアに利用するエネルギーの変換、制御、利用について説明することができる。</p> <p>△①他のエネルギー変換の例やエネルギー変換機器の具体的な例を示しながら学習した内容を振り返らせる。</p>

単位時間ごとの「おおむね満足できる」と判断される状況

	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
13 14		○自分が製作するインテリアについての組立に必要な工具や機器の適切な使用方法について説明することができ、作業工程表が作成できる。
15 ～ 21	○自分が製作するインテリアの設計に基づき、材料や加工法に応じて工具を選択し、材料取りができる。 ○自分が製作するインテリアの設計に基づき、材料や加工法に応じて工具を選択し、部品加工ができる。 ○自分が製作するインテリアの設計に基づき、材料や加工法に応じて工具を選択し、組立ができる。 ○……	
22	○完成した製作品の点検すべき箇所を正確に見付け、適切な調整と回路計を用いた保守点検ができる。	

<p>◆機器の点検すべき箇所を見付け、保守点検ができ、漏電、感電、過熱及び短絡による事故を防止できる。（観察・点検シート・実技テスト）</p>	<p>◆機器の構造や電気回路・各部の働き・機器の定期点検の必要性・電気機器の定格表示や安全に関する表示の意味及び許容電流の遵守等・機器の適切な使用方法についての知識を身に付けている。（観察・ワークシート・ペーパーテスト）</p>
<p>◎①身近な機器の点検すべき箇所を見付け、日常点検と漏電、感電、過熱及び短絡による事故を防止できる。</p>	<p>○①自分が製作するインテリアについて点検すべき箇所を見付け保守点検ができる。</p>
<p>◎①身近な電気機器の構造や電気回路・各部の働き・機器の定格表示や安全に関する表示の意味及び許容電流の遵守等、適切な使用方法について具体例を挙げて説明することができる。</p>	<p>○①自分が製作するインテリアについての構造、電気回路・各部の働き・機器の定期点検の必要性について説明することができる。</p>
<p>△①点検すべき箇所や保守点検の手順を再度確認させ、練習用教材などを活用し繰り返し取り組ませる。</p>	<p>△①定格表示の掲示物を活用し、ワークシートに表示の意味を記入させ、学習した内容を振り返らせる。</p>
<p>◆エネルギー変換を利用したインテリアの設計に基づき、安全を踏まえた製作品の組立て・調整や、電気回路の配線及び回路計を用いた点検ができる。（観察・点検シート・実技テスト）</p>	<p>◆組立てや調整に必要な工具や機器の適切な使用方法についての知識を身に付けている。（観察・ワークシート・ペーパーテスト）</p>
<p>◎②③自分が製作するインテリアの設計に基づき、材料や加工法に応じて適切な工具を選択し、安全を踏まえた製作品の組立てが正確にでき、点検すべき箇所を見付け、調整や、電気回路の配線、回路計を用いた点検ができる。</p>	<p>○②③自分が製作するインテリアの設計に基づき、安全を踏まえた製作品の組立て、電気回路の配線、回路計を用いた点検ができる。</p>
<p>◎①自分が製作するインテリアについての組立てや調整に必要な工具や機器の工程順に正しく選択し、適切な使用方法と作業効率の良い作業について具体的に説明することができる。</p>	<p>○①自分が製作するインテリアについての組立てに必要な工具や機器の適切な使用方法について説明することができ、作業工程表が作成できる。</p>
<p>△②③同様の設計をしている生徒と班を組ませ、確認させるとともに、進捗状況に合わせ個別指導を行う。</p>	<p>△①教科書にある工具の使用方法を確認させたり、作業の手順を知らせたりするなど個別指導を行う。</p>

## 2 事例2 技術分野「A材料と加工に関する技術」

- (1) 本時の目標 材料に適した切断の方法について知り、適切にのこぎりびきができる。  
 (2) 本時の展開

【A(2)イ】(10/23時間)

学習過程	生徒の活動	時間	教師の働きかけ	評価と指導の工夫 ＜評価の観点＞(評価方法)	資料等	
				◆評価規準 ※指導上の留意点 ◎十分満足できる状況 ○おおむね満足できる状況 △努力を要する状況の生徒への指導の手立て		
学習課題への意欲付け	・木材へのけがきの方法、両刃のこぎりの各部の名称等を確認する。	10	・切断及びのこぎりびきについての既習事項を確認させる。 ・本時の課題を提示する。	※のこぎりの使用経験については、事前アンケートを行い、把握しておく。	両刃のこぎり さしがね ワークシート 練習材料 切断見本	
	<p style="text-align: center;"><b>学習課題：目指せ！「のこぎりびきの達人免許皆伝」</b> ～切断線に沿ってまっすぐ、直角に切断できるようになろう！～</p>					
	・のこぎりの安全な取り扱い方を確認する。 ・既習経験を基に、練習材料(けがき線あり)を切断する。 ・切断面の状況を検査し、自己評価する。 ・難しかったところを発表する。	15	・安全にのこぎりを扱う方法を確認させる。 ・練習材料を切断させる。 「自分のスキルを確認しよう。」 ・自己評価の結果を挙手させる。 ・難しかったところを発表させる。	※材料の切断見本を提示する。 ※刃の進む方向には手を置かない。 周囲の状況に気を付ける。 けがをしたらすぐ報告する。 等	ワークシート	
・示範を見て気付いたことをメモする。 ・メモしたことを発表する。	・のこぎりびきを示範する。 「先生ののこぎりびきから、技をつかみ取ろう。」 ・気付いたことを発表させる。		◆材料に適した切断の方法についての知識を身に付けている。＜知識・理解＞(ワークシート) ◎材料に適した切断の方法について、材料の固定、姿勢・視線、刃の選択、切り込み角度、切り始め、途中、切り終わり、安全への配慮についてワークシートにポイントをまとめている。 ○材料に適した切断の方法について、いくつかの方法についてポイントをまとめている。 △記述のない方法についてヒントを与える。 △示範のビデオを視聴させ、切断のポイントを確認させる。	パネル (正しいのこぎりびきの方法)		
・正しいのこぎりびきの方法について、ワークシートにまとめる。(材料の固定、姿勢・視線、刃の選択、切り込み角度、切り始め、途中、切り終わり、安全への配慮の各項目)	15	・正しいのこぎりびきの方法を解説しながら、示範する。 ・正しいのこぎりびきの方法について、ワークシートにまとめるように指示する。 ・正しいのこぎりびきの方法をまとめたパネルを黒板に掲示する。	◆正しい使用方法で正確にのこぎりびきができる。＜技能＞(観察) ◎材料の固定、姿勢・視線、刃の選択、切り込み角度、切り始め、途中、切り終わり、安全への配慮が適切で、切断線に沿ってまっすぐで、基準面に対して直角に切断できる。 ○おおむね正しい方法によって、切断線に沿ってまっすぐ、基準面に対して直角に切断できる。 △生徒の状況に応じて、簡潔な言葉で助言し、必要に応じて示範する。		両刃のこぎり さしがね ワークシート 練習材料	
まとめ	・本時の自分の活動を振り返り、ワークシートにまとめる。	10	・本時の学習の振り返りをさせる。	※本時のはじめに行った切断の状況と、練習後の状況を比較させ、向上したこと、新たに分かった切断のポイントについて記述させる。	ワークシート	

### (3) 評価方法

#### ア ワークシートによる評価 【A(2)イ】

技術・家庭科学学習ノート  
**目指せ！「のこぎりびきの達人」** 1年組 番氏名  
 学習課題「切断線に沿ってまっすぐ、直角に切断できるようになろう！」

安全の約束  
 ・刃の進む方向に手を置かない。  
 ・周囲の友達にのこぎりや材料をぶつけないように気を付ける。  
 ・使ったあとは工具箱へ。

1 自分の腕前を確認しよう！  
 ①切断線に沿ってまっすぐに切断できたかな？  
 まっすぐ切れた 少しまがった かなりまがった  
 ②直角に切れたかな？  
 直角に切れた 少しまがった かなりまがった

2 先生の技を眺めよう！  
 気になった箇所でもかまどめよう  
 作業用イスを倒して、出っばりに材料を引っかけていたのこぎりの刃を刃わたりいっぱいまで使った足で材料を踏んでいた 両手でのこぎりを持っていた

3 のこぎりびきのポイントについてまとめよう！  
 友だちの発表や先生の解説を聞いて、自分の言葉でまとめよう  
 □材料の固定  
 作業用イスのあてに材料を置き、足で踏んで固定する 足に体重をかける  
 □姿勢・視線  
 のこぎりの刃の真上に頭が来るようにする  
 □刃の選択  
 横びきと縦びきを使い分ける 横びきは細かい方  
 □切り込み角度  
 刃は、寝かせるほどまっすぐにきれる  
 □切り始め  
 切り始めは爪を当てて切り込み角度を小さくする  
 □途中  
 習熟し全体を使って切断する  
 □切り終わり  
 切り終わりは片手で材料を支える 切り込み角度は小さくする  
 □安全への配慮  
 回りに注意して、友達に当たらないようにする

授業の流れに沿って、生徒が思考をまとめやすいよう、ワークシートを構成する。

＜知識・理解＞  
 ◎姿勢、材料の固定、刃の選択や角度等、全てのポイントを押さえてまとめている。  
 ○いくつかのポイントについてまとめている。

#### イ 観察による評価 【A(2)イ】

＜技能＞  
 ◎切断の全てのポイントを押さえた作業ができている。また、切断線に沿ってまっすぐ、基準面に対して直角に、材料を切断している。

2人組になり、作業時に1人が正面に立ってアドバイスをする。作業後は切断面を互いに確認し合う。

のこぎりびきの観察ポイント  
 ■材料の固定：  
 ・作業用イスを座面を手前に安定した床面に倒している。  
 ・安全な範囲内で切断箇所に近い部分を足で踏んで、固定している。  
 ■姿勢・視線  
 ・体の中心線とのこぎりの動きが一致している。  
 ・材料を押さえる足に体重がかかる姿勢になっている。  
 ・切断面の真上に目の位置がきている。  
 ■切り始め、途中、切り終わり  
 ・親指の爪や当て木をガイドにして切り始める。  
 ・刃わたり全体を使って切断する。  
 ・角度を小さくして切り始め、切り終わる。



ウ 構想図による評価【A(3)ア】

【製作品の構想を練る場面での<工夫・創造>の評価】

技術・家庭科学学習ワークシート NO. 5  
製作品の構想をまとめよう

1 身の回りで、整理したいものは何か?

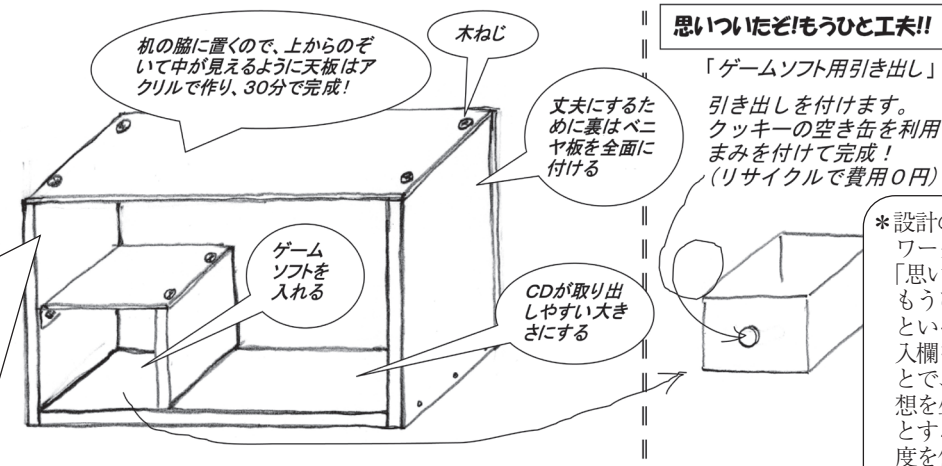
私は (どこの) **部屋の机のまわりの** (何を) **CDやゲーム小物** を整理したい。

(使用する場所をもっと詳しく) **机の横の2段ボックスの上** (大きさは) **机と同じ高さにしたいので 450×250×280**

どんな作品を作ろうか? (構想のポイントやアイデアを でかき込もう)

<工夫・創造>

- ◆製作品の使用目的や使用条件を明確にし、材料、使いやすさ及び丈夫さなどを検討した上で、製作品の構成部品の形状や寸法などを決定している。
- ◎製作品の使用目的や使用条件が明確に記述され、製作品全体や構成部品の形状や大きさを考えるとともに、材料の選択、決定の理由が適切に記述されている。
- 製作品の使用目的や使用条件が記述され、製作品全体や構成部品の形状や大きさを考え、材料を選択している。
- △使用目的や使用条件をもう一度確認させたり、他の生徒の構想図を参考にさせたりする。



**思いついたぞ!もうひと工夫!!**

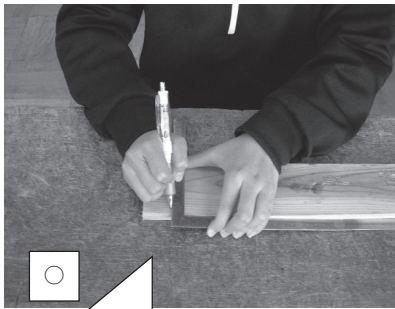
「ゲームソフト用引き出し」  
引き出しを付けます。クッキーの空き缶を利用して、つまみを付けて完成! (リサイクルで費用0円)

\*設計の場面では、ワークシートに「思いついたぞ!もうひと工夫!!」といった追加記入欄を設けることで、新しい発想を生み出す意欲、態度を促すことにつながる。

◎アクリル板やベニヤ板を材料として選んだ理由が記述されている。また、限られたスペースに納め、CDが取り出しやすい大きさを考慮した寸法に設計するなど様々な制約条件に折り合いを付けて使用条件にかなう最も適した解決策を考え出している。

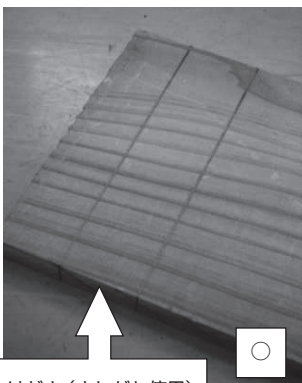
1年 組 番氏名

エ 実技テストによる評価【A(2)イ】



<技能>

- ◆さしがねの正しい使用方法に基づいて正確にけがきを行うことができる。
- けがきのポイントを押さえて、基準面に対して垂直な直線を4面にかくことができる。
- △けがきのポイントの一つ一つ確認させた上で、作業を行わせる。



けがき(さしがね使用)の観察ポイント

- ・基準面にさしがねの長手の内側を当ててけがいている。
- ・長さを正しく測っている。
- ・周囲4面にけがき線を正しくけがいている。

オ ワンポイントテストによる評価【A(2)イ】

【一問一答式カードテストの活用】

問題 さしがねで木材に、のこぎりびきのけがきをするときのポイントをかきなさい。

**基準面を決め、さしがねの長手をあてて、妻手でけがく。  
けがき線は4面にまわす。  
妻手の外側で、鉛筆は立ててけがく。**

<知識・理解>

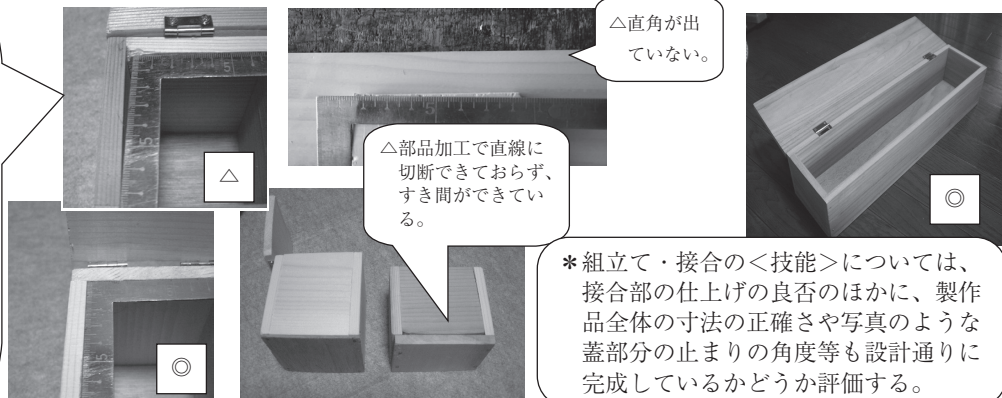
- ◆さしがねの正しい使用方法についての知識を身に付けている。
- キーワード(上記の例の下線)が記述されている。

\*授業のまとめの際に「ワンポイントテスト」を実施して、知識の定着を図る。また、前時までの学習を振り返る際にも活用する。

カ 製作品による評価【A(3)ウ】

<技能>

- ◆製作図を基にして、組立て、接合ができる。
- ◎使用目的が果たせる製作品を完成させるとともに、直角や平行について正確な加工を行い、接合面等を寸法どおりに仕上げている。
- 使用目的が果たせる製作品を完成させている。
- △修正の方法と到達すべき完成度を具体的に指示する。



\*組立て・接合の<技能>については、接合部の仕上げの良否のほかに、製作品全体の寸法の正確さや写真のような蓋部分の止まりの角度等も設計通りに完成しているかどうか評価する。

3 事例3 技術分野「C生物育成に関する技術」

- (1) 本時の目標 栽培の目的や条件に応じた合理的な栽培方法について考えることができる。
- (2) 本時の展開

【C(2)ア】(6/10時間)

学習過程	生徒の活動	時間	教師の働きかけ	評価と指導の工夫 <評価の観点>(評価方法)	資料等
学習課題への意欲付け	・栽培の目的や様々な栽培上の制約条件についてまとめる。 ・制約条件を整理し、改善点、工夫点を考える。	10	・自分の栽培物や作業への思いを広げさせる。 ・制約条件を整理させ、改善すべき点を考えさせる。	※制約条件については、全員共通のものと同別のものに分けて提示する。	ワークシート
課題発見と解決	学習課題：栽培の目的や条件にあった計画を考えよう。				拡大した計画表
	・具体的な解決方法を考え、工夫した作業内容を記入し、その理由や根拠を考える。	10	・様々な制約条件を考え、課題解決に向けて具体的な方法を考えさせる。	◆栽培の目的や制約条件に応じた栽培計画を立て、栽培の方法を工夫することができる。<工夫・創造>(ワークシート)	プロジェクト
	・個々の計画表をもちより、班毎に修正や改善のアイデアについて意見交換をし、一つの計画表にまとめる。	5	・班としての最適な解決方法を考えさせる。	◎栽培の目的や条件にあった栽培計画を立てるとともに、意図する栽培に必要な主な作業内容や手順、留意点が理由と根拠とともに具体的に記述されている。	スクリーン
	・班でまとめた計画表を発表する。	10	・クラスで各班のアイデアを共有し、自分の考えの修正点を見付けさせ、発想を広げさせる。	○栽培の目的や条件にあった栽培計画を立てるとともに、意図する栽培に必要な主な作業を挙げ、その理由が記述されている。	実物投影機
まとめ	・他人と自分のアイデアを比較検討する中で、最終的に自分なりの作業計画を考え、まとめる。 ・最適な計画のポイントを整理し、発表する。	15	・最適な作業計画を自分なりに考え、その理由や根拠をまとめる。 ・自分が考えた最適な作業計画のポイントを発表させる。	△制約条件と関連する環境要因等から必要な作業や準備する物などを考えさせる。 △それぞれの作業内容と環境要因等との関連性を考えさせる。	

(3) 評価方法

ア ワークシートによる評価 【C(2)ア】

【ワークシートを活用した工夫・創造の評価のポイント】

技術・家庭科「技術分野：植物を育てて、味わって、考えよう！」  
～①栽培の目的や条件にあった計画を考えよう！～  
みんなで考えてみよう！ 2年組 番氏名

Aさんが目的とする栽培は…  
・半日陰でも根腐れ等を起こさずにできる栽培  
・どうすればいいのかな？

一緒に考えよう！どんな環境のどのような改善が必要かな？  
①土壌環境の土の通気性が良くなればよい  
②大気環境の日の当たり方を変えてみる

では、理想の環境をどうやって作り出し、管理すればいいのかな？あなたの考えを教えてください！

作業内容のポイント(計画した理由)	作業日	予定している作業内容
①少しでも通気性をよくするために地表から割り箸やフォークで穴をあける	準備	①穴あけ作業2回目
②日当たりを少しでもよくするために反射板を周りに置いて日当てる	準備	①穴あけ作業1回目
	準備	②反射板の設置
	準備	間引き2回目&追肥
	準備	間引き1回目&追肥
	準備	本葉2枚
	準備	発芽
	準備	種蒔き
	準備	栽培予定期間

①基本の培養土に通気性のある土を混ぜる  
①葉焼きや木材などの吸水性のある容器を使う

培養土の準備  
容器の工夫

一言セールスポイント！

※1 私は特に 土の水はけ・通気性をよりよくすること を意識し、  
(場面) 準備 の時に(作業) 用土に腐葉土やパーライトを加える。  
なぜなら 水はけ・通気性をよくする土を加えれば環境が改善できる から。  
でも 逆に水持ちが悪くならないように加える量やよく混ぜるように気をつける

※2 私は特に 土の水はけをもっとよくすること を意識し、  
(場面) 準備 の時に(作業) 用土に腐葉土を多めに加える。  
なぜなら 団粒構造になって水はけがよくなる から。  
でも 入れすぎないように気をつける

様々な制約条件の下、課題に対して、習得した学習内容を生かした解決策を考えさせる。

自分なりに工夫した内容を記述した最終的な結果だけでなく、そこに至るまでの思考し判断した過程についても評価する。

◎の記述例 ※1  
栽培の目的に応じ、どの場面でのどんな作業を行うかについての記述に加え、「水はけ・通気性をよくする土を加えれば環境が改善できる」といった、作業内容の理由付けや根拠が具体的に記述されている。さらに、「水持ちが悪くならないように加える量」等、その作業を行うに当たっての留意点が用土の特性と関連付けて具体的に記述されている。

○の記述例 ※2  
「準備の時に用土に腐葉土を多めに加える」といった、どの場面でのどんな作業を行うのかが記述され、「団粒構造になって水はけがよくなるから」等、その作業を行う理由が記述されている。



イ 学習記録カードによる形成的評価【C(1)イ】

1  
2  
3  
4  
5

1  
2  
3  
4  
5

(5) 作業の機械化や大規模化について  
○ どのようなことを考えましたか？

(4) 作物の生産性を上げるためのバイオ  
○ 技術についてどのようなことを考えましたか？

(3) 農薬の活用による影響についてどんな  
○ ことを考えましたか？

(2) 無機質肥料の活用による土壌への  
○ 影響についてどのようなことを考えましたか？

(1) 生育管理をする施設栽培や栽培技術に  
○ ついてどのようなことを考えましたか？

ハウス栽培によって生育温度等の管理をして  
いつでも野菜が食べられるようになったが、  
その分燃料を燃やし温度を上げているから、  
二酸化炭素排出で環境には悪い気がする。\*1

学習を進める中で考えたこと…  
温度管理を燃料と蓄電によるハイブリッドシステム  
や太陽電池による発電でヒーターが使えるといいと思う。  
家畜の糞尿を肥料に使うにあたって、発酵して出る熱も  
うまく使えないかなと思う。\*2

**学習記録カード**  
(生物育成に関する技術)

2年○組○番 氏名□□□□

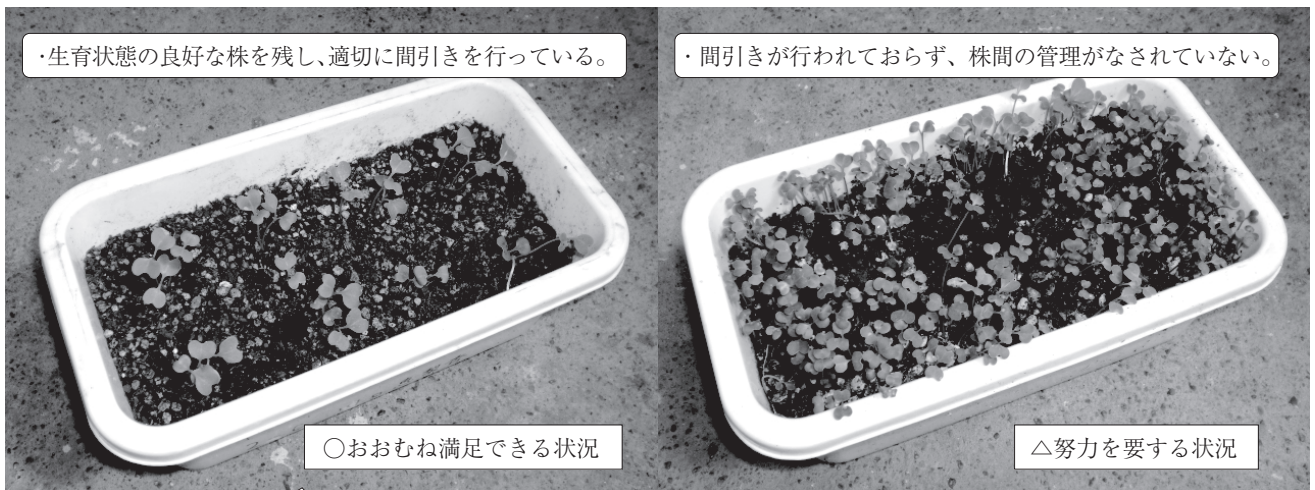
\* A 6サイズの学習記録カードを授業で計画的に用意する。「生物育成の技術と私たちの生活とのかかわり」について学習した際に考えたことを随時記入させ、記録を重ねていく。

<関心・意欲・態度>  
◆生物育成に関する技術の課題を見付け、環境的側面から検討し、適切な解決策を示そうとしている。  
○技術が与えた負の影響について解決策まで考えようとしている。(検討している。) \*2  
○技術が与えた負の影響を見付けている。 \*1  
△技術の進展による生活の変化を考えさせ、それによって影響を受けるものを考えさせる。  
△現実に社会で起きている問題点を紹介する。

**【技術の適切な評価と活用の学習場面】**

技術が社会や環境に与えている影響等について、生産者や利用者の立場として考えさせる場面を学習内容に照らして意図的に数回設定し、学習場面ごとに用意したカードに自分なりの捉え方を記入させる。学習を進める中で、改めて技術が与えた負の影響やそれらに対する解決策などを、関連するカードに随時追加記入できるようにする。「技術と生活、社会や環境とのかかわり方」に対する考えや学習を通して新たに得た考えを継続的に記録することで、技術に関する意欲や態度を評価する。

ウ 栽培状況の観察による評価【C(2)ア】



<技能>

- ◆栽培物の生長の変化を捉え、状況に応じて合理的な管理作業ができる。
- 収穫量を上げるために栽培スペースを考慮し、生育状態の良好な株を残し、株間を開けて間引きを行うなど、生育状態に応じて管理をすることができる。
- △株間を開ける必要性を確認させる。
- △生育状態から間引く必要のあるものの選別や間引きの方法を確認させる。

**【栽培状況の観察による技能の評価について】**

栽培物の管理状況の評価を行う場合、各管理作業について、それぞれ○●△と判断するのではなく、全ての管理作業が○なら●と判断することも評価方法として有効である。例えば、管理作業として、生育状態に応じて株間を開けるための間引きやえき芽を増やすための摘芯、花や果実を大きくし枝の仕立てを管理するための摘芽、生育を妨げる雑草の除去など、それぞれの管理作業は○△で判断し、全ての管理作業が○なら●と判断する。その際、あらかじめ生徒にその管理作業を行わせるタイミングや目安となる栽培物の状態、作業後栽培物がどのような状態になればよいかといった例を具体的に示すことが大切である。また、生育状態によって一斉に作業ができないことや同一の作業が継続して必要になることも考えられるため、評価の時期や期間も考慮する必要がある。



4 事例4 家庭分野「C衣生活・住生活と自立」

(1) 題材名

「住まいの安全を考え、防災グッズをつくろう！」 【C(2)アイ】 【C(3)ア】

(2) 題材の目標

家族が住まう空間としての住居の機能や環境に配慮した生活を送る必要性を理解し、防災グッズの製作を通して、安全で快適な室内環境の整え方を考え、よりよい住まい方の工夫ができるようにする。

(3) 題材の評価規準

生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力
<ul style="list-style-type: none"> <li>安全で快適な室内環境の整え方と住まい方について関心をもって学習活動に取り組み、住生活をよりよくしようとしている。</li> <li>衣生活、住生活などの生活の工夫について関心を持ち、布を用いた物の製作などに取り組み、衣生活または住生活を豊かにするために実践しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全で快適な室内環境の整え方と住まい方について課題を見付け、その解決を目指して工夫している。</li> <li>衣生活、住生活などの工夫について課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。</li> </ul>

(4) 評価の計画 (14時間)

時間	ねらい・学習活動【指導項目】	生活や技術への関心・意欲・態度		生活を工夫し創造する能力	
		◆評価規準(評価方法)		◆評価規準(評価方法)	
		◎十分満足できる状況	○おおむね満足できる状況	◎十分満足できる状況	○おおむね満足できる状況
		△努力を要する生徒への指導の手立て		△努力を要する生徒への指導の手立て	
1 ・ 2	<p>○家族の住空間について考え、住居の基本的な機能について知る。 【C(2)ア】</p> <p>①家族の住空間と生活行為とのかかわりを簡単な図を活用して考える。</p>	<p>◆自分や家族の住空間と生活行為とのかかわりについて関心をもって学習活動に取り組んでいる。(観察・ワークシート)</p> <p>◎①自分や家族の住空間を簡単な図を用いて生活行為とのかかわりについて具体的に考え、関心をもって学習活動に取り組み、今の自分の生活の中で課題を見付けようとしている。</p> <p>○①自分や家族の住空間を簡単な図を用いて生活行為とのかかわりについて具体的に考え、関心をもって学習活動に取り組もうとしている。</p>		<p>◆◎○△の各記号については、各事例で示す指導案等にも同様の意味で表記してある。</p> <p>◆評価規準(評価方法)の設定例</p> <p>◎「十分満足できる」と判断される状況</p> <p>○「おおむね満足できる」と判断される状況</p> <p>△「努力を要する」と判断される状況の生徒への指導の手立て</p>	
3 ・ 4	<p>○家族が安全で快適に住まうための室内環境の整え方を知り、具体的な工夫ができる。 【C(2)イ】</p> <p>①家庭や学校での事故や自然災害について危険な箇所を点検したり、資料で調べたりして、グループでまとめ、発表する。</p>	<p>◆安全で快適な室内環境に関心を持ち、整え方や住まい方の課題に取り組もうとしている。(観察・ワークシート)</p> <p>◎①家庭内事故や自然災害の予防について関心を持ち、室内環境の整え方や住まい方の課題に取り組もうとしている。</p> <p>○①家庭内事故や自然災害の予防について関心を持ち、室内環境の整え方や住まい方の課題に取り組もうとしている。</p>		<p>◆室内環境について課題を見付け、調査・観察・実験などを通して、安全で快適な整え方や住まい方について考え、工夫している。(観察・レポート)</p> <p>◎①家庭内事故や自然災害の対策に課題を見付け、調査・観察を通して、資料を活用しながら、幼児や高齢者にとっても安全な方法について考え、工夫している。</p> <p>○①家庭内事故や自然災害の対策に課題を見付け、調査・観察を通して、資料を活用しながら、安全な方法について考え、工夫している。</p>	
5 ・ 6	<p>②室内空気の汚染と人の健康との関係について調べ、さらに音の測定実験を行い、その結果から工夫できることを考える。</p>	<p>◎②室内の空気調節や音と生活のかかわりについて関心を持ち、自分の生活を振り返りながら、整え方や住まい方の課題に取り組もうとしている。</p> <p>○②室内の空気調節や音と生活のかかわりについて関心を持ち、整え方や住まい方の課題に取り組もうとしている。</p>		<p>△①自分や家族にかかわる家庭内事故や自然災害について思い出させたり、想像させたりして考えさせる。</p> <p>△②自分や家族の住まいの空気調節や音に関する課題について、ワークシート等を用いて振り返らせて調べさせ、具体的な工夫ができるか、具体的に考えさせる。</p>	
7 ・ 14	<p>○家族の安全に役立つ布を用いた物(生活に役立つ防災グッズ: 救急用具入れ、防災リュック、非常食入れ、防災ずきんなど)の計画と製作を通して、生活を豊かにするための工夫ができる。 【C(3)ア】</p> <p>①家族の安全に役立つ布を用いた物の製作計画を立てる。</p> <p>②手縫いやミシン縫いなど基礎的・基本的な知識と技術を活用し、製作する。</p> <p>③アイロンを適切に取扱い、作品を仕上げます。</p> <p>④製作品を活用し、気付いたことをまとめる。</p>	<p>◆布を用いた物の製作に関心をもって取り組み、自分や家族の生活を豊かにしようとしている。(観察・学習記録表)</p> <p>◎①～④家族の安全に役立つ布を用いた防災グッズの製作に関心をもって取り組み、どのように活用できるか具体的に考え、自分や家族の生活を積極的に豊かにしようとしている。</p> <p>○①～④家族の安全に役立つ布を用いた防災グッズの製作に関心をもって取り組み、自分や家族の生活で活用して、豊かにしようとしている。</p>		<p>◆衣生活や住生活を豊かにするための製作品を考え、製作計画や方法について自分なりに工夫している。(観察・製作品・レポート)</p> <p>◎①家族の安全に役立つ布を用いた防災グッズの製作品を考え、製作計画や方法について、複数の工夫をしている。</p> <p>○①家族の安全に役立つ布を用いた防災グッズの製作品を考え、製作計画や方法について自分なりに工夫している。</p>	
		△①～④家族の安全に役立つ布を用いた防災グッズにはどんなものがあるか確認させたり、実物を例示したりして考えさせる。		△①家族の安全に役立つ布を用いた防災グッズの製作方法について確認させたり、具体例を示したりして考えさせる。	
		△①～③縫い方標本、段階標本を提示する。			

生活の技能	生活や技術についての知識・理解
・布を用いた物の製作や衣生活、住生活などの生活の工夫に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	・住居の機能について理解し、安全で快適な室内環境の整え方と住まい方に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。・衣生活、住生活などの生活の工夫に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

生活の技能		生活や技術についての知識・理解	
◆評価規準（評価方法）		◆評価規準（評価方法）	
◎十分満足できる状況	○おおむね満足できる状況	◎十分満足できる状況	○おおむね満足できる状況
△努力を要する生徒への指導の手立て		△努力を要する生徒への指導の手立て	
<p>◆評価規準は国立教育政策研究所の「評価規準の作成のための参考資料」の「内容のまとめりごとの評価規準に盛り込むべき事項」及び「評価規準の設定例」を基にしている。題材の取り扱う内容に応じて具体的な表記にしたり、複数の評価規準を組み合わせて一つの評価規準にしたりする。</p>		◆住居の基本的な機能について理解している。 (ワークシート・ペーパーテスト)	
		◎①住居の基本的な機能である自然から保護する働き、心身の安らぎと健康を維持する働き、子どもが育つ基盤としての働きについて具体的に説明できる。	○①住居の基本的な機能は、自然から保護する働き、心身の安らぎと健康を維持する働き、子どもが育つ基盤としての働きであることが分かる。
<p>二つ目のねらい・学習活動は3～6時間なので、2時間ごとの評価を示した。点線は、2時間ごとに区切ったものである。</p>		△①教科書で住居の基本的な機能について振り返らせ、ワークシートで自分や家族の住まい方について考えさせる。	
		◆安全で快適な室内環境の整え方や住まい方に関する具体的な方法について理解している。 ・家庭内事故の防止や自然災害への備え ・室内の空気調節 ・音と生活とのかかわり (ワークシート・ペーパーテスト)	
<p>三つ目のねらい・学習活動についても、7～14時間の中で、1～2時間ごとに評価することで、より適確な評価ができる。 また、製作が中心となる内容なので、評価は繰り返すとなる。</p>		◎①自然災害を含む家庭内の事故やその原因について考え、災害への備えや事故の防ぎ方などの安全管理の方法が分かり、具体的な方法が説明できる。	○①自然災害を含む家庭内の事故やその原因について考え、災害への備えや事故の防ぎ方などの安全管理の方法が分かる。
		△①教科書やワークシート等で、家庭内事故の防ぎ方や自然災害への備えを具体的に調べさせる。	
<p>◆安全で能率よく、布を用いた物の製作をすることができる。 ・目的に応じた縫い方 ・用具の安全な取扱い（観察・製作品・実技テスト）</p>		◎②室内の空気を清浄に保つことの大切さや音と生活のかかわりについて具体的に説明できる。	○②室内の空気を清浄に保つことの大切さや音と生活のかかわりについて分かる。
		△②教科書やワークシート等で、室内の空気調節の方法や生活の中での音の出し方について具体的に調べさせる。	
<p>◎②③安全で能率よく、家族の安全に役立つ布を用いた防災グッズを見通しをもって製作し、丁寧に仕上げることができる。 ・目的に応じた縫い方 ・用具の安全な取扱い</p>		◎②③安全で能率よく、家族の安全に役立つ布を用いた防災グッズを製作し、仕上げるることができる。 ・目的に応じた縫い方 ・用具の安全な取扱い	◎①～③家族の安全に役立つ布を用いた防災グッズの製作に関する知識を身に付け、説明することができる。 ・材料と用具の選択 ・製作手順 ・目的に応じた縫い方 ・用具の取扱い (学習記録表・ワークシート・ペーパーテスト)
<p>◎①～③家族の安全に役立つ布を用いた防災グッズの製作に関する知識を身に付けている。 ・材料と用具の選択 ・製作手順 ・目的に応じた縫い方 ・用具の取扱い</p>		<p>◎①～③家族の安全に役立つ布を用いた防災グッズの製作に関する知識を身に付けている。 ・材料と用具の選択 ・製作手順 ・目的に応じた縫い方 ・用具の取扱い</p>	
△②③小学校での学習や既習の補修について思い出させたり、示範したりする。		△①～③教科書等で、家族の安全に役立つ布を用いた防災グッズを製作する手順を確認させる。	

## 5 事例5 家庭分野「A家族・家庭と子どもの成長」

(1) 本時の目標 幼児と触れ合うことよき気づき、幼児とのかかわり方についてまとめることができる。


(2) 本時の展開

【A(3)イ】(13, 14/14時間)


学習過程	生徒の活動	時間	教師の働きかけ	評価と指導の工夫 ＜評価の観点＞（評価方法）	資料等
				◆評価規準 ※指導上の留意点 ◎十分満足できる状況 ○おおむね満足できる状況 △努力を要する状況の生徒への指導の手立て	
既知の学習活動への意欲付けと 課題の解決と知識の定着	・訪問時のビデオや写真を見る。 ・幼児との交流を振り返り、感想を発表する。	5	・訪問時のビデオや写真を見せて実習を思い出させる。 ・お互いの感想を聞き合うことで、本時のまとめの意欲をもたせる。	※課題の解決ができたことや自分の心の変化、幼児についての思いを素直に書くように話す。 ◆幼児の遊びや幼児の発達について、観点到に基づいて観察し、整理することができる。＜技能＞（観察カード） ◎訪問を通して、幼児の遊びや遊び道具、遊びと発達とのかかわりについて各観点到に基づいて観察し、既習の事項と照らし合わせながら具体的な言葉でまとめることができる。 ○訪問を通して、幼児の遊びや遊び道具、遊びと発達とのかかわりについて観点到に基づいて観察し、まとめることができる。 △再度、ビデオや写真を見て訪問時のことを思い出させる。	観察カード 資料ア
	学習課題 訪問記録をもとに幼児とのかかわり方についてまとめよう！ ・訪問の記録をまとめる。 ・グループで各自の記録を基に発表を行う。 ・それぞれの発表を聞きながら、気付いたことや意見を記入し、グループの中で全員が意見交換を行う。 ・個人で新聞を作成する。 ・新聞を作成し、気付いたことを発表する。	20 60 15	・訪問記録を観察カードに記入させる。 ・グループで発表し、意見交換をさせる。 ・観察カードを基に新聞にまとめさせる。 ・新聞を作成し、気付いたことを発表させる。	◆幼児の心身の発達に応じたかかわり方について、観察したことを生かして考え、工夫している。 ＜工夫・創造＞（新聞・発表） ◎観察カードや既習の事項などをもとに、幼児の心身の発達に応じたかかわり方について自分なりに工夫した点を新聞にまとめている。 ○観察カードをもとに、幼児の心身の発達に応じたかかわり方について自分なりに工夫した点を新聞にまとめている。 △観察カードを見て、訪問時のことを具体的に思い出させる。	実物 投影機

(3) 評価方法

ア 観察カードによる評価例【A(3)ウ】



### 幼児の様子を観察しよう



訪問日	月	日( )	組	番	氏名	訪問先	園	訪問クラス	組( )	歳
観察したいこと	観察項目	訪問前	訪問中		訪問後					
	遊び方									
	遊びの種類									
	遊び道具									
	遊びの環境									
	園の施設・設備									
	その他									
一番印象に残っていること・これからの生活に役立たいこと・感想等										

訪問前、訪問中、訪問後と三つの段階で記入し、技能の評価とする。事前学習で学んだことや実際に幼児と積極的に触れ合い、観察したことから幼児の遊びや幼児の発達で分かったこと、自分の気持ちの変化や幼児とのかかわり方で大切なことをまとめることができる。


園の先生や園児のみんなに手紙をかきましょう！

・各自が自分のテーマに従って観察したいことについて、あらかじめチェックしておく。

【訪問前】・・・特に観察したいことを中心に既習の学習事項を参考に予想される幼児の行動や遊びについて記入する。

【訪問中】・・・触れ合うグループと観察するグループに分けて役割を交代し、観察する時間を確保する。既習の学習事項の観点到に基づき、自分の課題を中心にそれぞれについて気付いた点をその場で簡単に記録する。

【訪問後】・・・訪問を終えて観察したことをさらに書き加える。  
※訪問中に観察記録の時間が確保できない時には訪問後の記録が中心となる。



^

より

※生徒自身が選択した観察についての項目を中心に、訪問中に観察し記入した内容を評価する。

◎の記述例：6歳児はドッジボールなどルールを守って、ゲームができた。ロッカーや靴箱など自分のところがあるように、それぞれ各自のマークのような絵がはってあった。4歳くらいの子は言うことも聞かずうるさいと思っていたが、元気がよく素直だった。

○の記述例：6歳児は集団でドッジボールをやっていた。トイレや水道が小さかった。どの子も元気で素直だった。



イ ワークシートによる評価例【A(3)イ】

**幼児の遊ぶ遊びを考えよう**

遊びの名前(作品名)

年 組 番 氏名	
対象年齢	歳(組) <input type="text"/> 班 員 名(◎ 班長) <input type="text"/>
目 標	<input style="width: 100%;" type="text"/>
期待する能力	対象年齢の幼児はどんな時期か <input style="width: 100%;" type="text"/>
遊び方(どんなことをするか、やり方、手順を詳しくまとめる)	
材料・用具 <input style="width: 100%;" type="text"/>	
注意事項	
工夫点・アピールポイント	感想 <input style="width: 100%;" type="text"/>
他の班の発表から学んだこと(こんなところをまねたい等)	他の班へのアドバイス <input style="width: 100%;" type="text"/>
アドバイスから改善点を考えよう	先生から <input style="width: 100%;" type="text"/>

<工夫・創造>

◆幼児の心身の発達に応じた遊びや遊び道具、遊び方について考え、工夫している。

◎既習の学習事項にそって幼児の心身の発達に応じた遊びや遊び道具、遊び方について自分なりに考え、工夫した具体的な計画になっている。

記述例：・ルールを決めて集団で遊べる年齢なので、カルタ遊びで言語能力を発達させたい。  
・子ども達が好きなキャラクターを使ってカルタを作る。

○幼児の心身の発達に応じた遊びや遊び道具、遊び方について目標にそって自分なりに考え、工夫した計画になっている。

記述例：・幼児が興味をもってくれそうなおもちゃを作って一緒に楽しく遊ぶ。  
・けがのないよう注意をはらう。

△幼児の行動のビデオや写真を見たり、周りの生徒の計画を参考にさせたりする。

ウ 行動観察記録シートによる評価例【A(3)ウ】

氏 名	積極的にかかわろうとしている				積極的にかかわれない				メモ
	か表 け情 で豊 い か るに 話 し	で交 いエ るて ス 話 チ しゃ か けを	るな 幼 つ児 での 様目 し様 てに	やりい ずか・享 いけゆな 言・つ言 葉わく葉 かりづ り語か	表 情 が 暗 い	しと 一 な か い か で わ い ろ て う 幼 と 児	ま中 つ学 て生 いで るか た	い乱 ・暴 卑な 口言 葉づ か	
1 行田 花子	✓		✓	✓					竹んかの仲間を上手にしていた
2 埼玉 太郎	✓	✓						✓	
3 東京 次郎					✓	✓			一人で遊具で遊んでいた

<関心・意欲・態度>

◆幼児と触れ合う活動などを通して、幼児に関心を持ち、適切にかかわろうとしている。

◎積極的にかかわる項目のすべてに記録がある。

○積極的にかかわる項目の半分以上に記録がある。

△積極的にかかわれない生徒のそばに行き、幼児にかけたらい言葉などを具体的に助言する。

※生徒を評価する観点をあらかじめ設定しておく。

生徒を評価する観点

教師による行動観察記録シートは、その場で観察し、観点に基づき簡単に記録できるものとする。十分に記録できない時も考えて、生徒個人による自己評価・生徒同士の相互評価・ビデオ・写真・園の先生の評価などを参考にすることも考えられる。

エ パーパーテストによる評価例【A(3)ア】

質問 1

幼児の身体の発育や運動機能の発達の特徴について学習したことや観察したことを踏まえて以下の問いについて答えなさい。

- ①身体の発育
- ②運動の機能
- ③言語、情緒、社会性

<知識・理解>

◆幼児の心身の発達の特徴について理解している。

◎①～③について、学習したことと観察したことを全て関連させて記入している。

記述例：①3、4歳児の身長は約1メートルと学習したが、実際は身長の個人差が大きかった。  
②三輪車に乗れるのは、3歳児くらいと学習したが実際に全員が三輪車に乗れた。  
③5、6歳児は縄跳びが跳べると学習したが、実際には個人差が大きく跳べない子もいた。年齢が上がるほど個人差が大きいと感じた。

○①～③について、学習したことについて記入している。

記述例：①身長に対して頭が大きい。  
②3、4歳でハサミが使えるようになる。  
③友達に言葉で気持ちを伝えることができるようになる。3、4歳では、おとんに反抗するようになる。

△テスト返却後、再度観察カードやワークシートなどで確認させる。

## 6 事例6 家庭分野「A家族・家庭と子どもの成長」

- (1) 本時の目標 小学校での学習を振り返り、中学校3学年間の学習について見通しをもつことができる。  
 (2) 本時の展開 【A(1)ア】 ガイダンス (1/1時間)

学習過程	生徒の活動	時間	教師の働きかけ	評価と指導の工夫 <評価の観点> (評価方法)	資料等
学習課題への意欲付け と既知のことの整理	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校家庭科で学習内容を発表する。</li> <li>クイズ形式で、学習内容をチェックする。</li> <li>ワークシートのチェック欄にしるしを付ける。</li> <li>特に、頑張った項目には、◎を付ける。</li> </ul>	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校家庭科の学習内容を思い出させ振り返らせる。</li> <li>クイズ形式で楽しく振り返らせる。</li> </ul>		ワークシート
課題の解決と知識の定着	<p>学習課題：技術・家庭科（家庭分野）の学習について知り、見通しをもとう！</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートで、中学校3学年間の学習内容A～Dの項目をそれぞれ確認する。</li> <li>上級生の実際の活動の様子をVTRや写真で知る。</li> <li>実物見本や製作物などを実際に手に取り確認する。</li> <li>家庭分野の学習のねらいや意図について説明を聞く。</li> <li>心構えや持ち物などの準備について確認する。</li> <li>ワークシートに、内容A～Dごとに、取組に対する自分の目標を記入する。</li> </ul>	10 15 15	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学校3学年間の学習内容を小学校の学習内容と関連させながら、紹介する。</li> <li>具体的にイメージがもてるように、活動の様子が分かるVTRや写真、ノート、実物見本、製作物などを見せる。</li> <li>家庭分野の学習を通して、どのような力を付けて欲しいのかなど、ねらいや学習意図を知らせる。</li> <li>各題材のねらいと、全体を通してのねらいとの関連性についても確認する。</li> <li>内容ごとに、家庭分野の学習で知りたいこと、やってみたいことを記入させ、やってみようという意欲を高めさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校の学習を振り返り3学年間の見直しをもつて学習に取り組もうとしている。</li> <li>&lt;関心・意欲・態度&gt; (ワークシート)</li> <li>◎小学校での学習内容を確認し、中学校での学習について内容ごとに具体的な目標を考え記入している。</li> <li>○小学校での学習内容を確認し、中学校での学習について内容ごとに目標を考え記入している。</li> <li>△中学校での取組の写真や画像を見せ、具体的なイメージをもたせる。</li> </ul>	実物の作品 写真 3学年間の授業の様子が分かる画像 教科書

### (3) 評価方法

#### ア ワークシートによる評価【A(1)ア】

生活の自立～家庭生活をよりよく豊かに創造しよう～	
小学校での学習	中学校での学習
<b>A 家庭生活と家族 家族・家庭と子どもの成長</b>	
<input type="checkbox"/> 家族の一員として仕事を分担できる <input type="checkbox"/> 家族と毎日会話をする 小学校で学んで今、できることをチェックしてみよう！	《学習の内容》 <ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の成長と家族</li> <li>○家庭と家族関係 (よりよい家族関係、地域とのかかわり)</li> <li>○幼児の生活と家族 (幼児との触れ合い)</li> </ul> ・3学年間の学習の見通し ・自分の成長と家族や家庭生活とのかかわり ・家庭や家族の基本的な機能 ・家庭生活と地域とのかかわり ・これからの自分よりよい家族関係 ・幼児の発達と生活の特徴 ・幼児と遊びの意義、遊び道具の製作 ・幼児との触れ合い、かかわり方の工夫 ・生活の課題と実践
<b>B 日常の食事と調理の基礎 食生活と自立</b>	
<input type="checkbox"/> 五大栄養素が言える <input type="checkbox"/> 包丁が使える <input type="checkbox"/> みそ汁が作れる <input type="checkbox"/> ご飯が作れる <input type="checkbox"/> 野菜をゆでることができる <input type="checkbox"/> 野菜をいためることができる	《学習の内容》 <ul style="list-style-type: none"> <li>○中学生の食生活と栄養</li> <li>○日常食の献立と食品の選び方</li> <li>○日常食の調理と地域の食文化</li> </ul> ・食事の役割と健康によい食習慣 ・栄養素の種類と働き、中学生の栄養の特徴 ・食品の栄養的特質 ・中学生の1日に必要な食品の種類と概量 ・中学生の1日分の献立 ・食品の選択 ・基礎的な日常食の調理 ・地域の食材を生かした調理、地域の食文化 ・生活の課題と実践
<b>C 快適な衣服と住まい 衣生活・住生活と自立</b>	
<input type="checkbox"/> 玉どめ・玉結びができる <input type="checkbox"/> なみ縫いができる <input type="checkbox"/> ミシンで縫える <input type="checkbox"/> ボタンが付けられる <input type="checkbox"/> 手洗いができる <input type="checkbox"/> 部屋の換気ができる <input type="checkbox"/> 机の中を整理される	《学習の内容》 <ul style="list-style-type: none"> <li>○衣服の選択と手入れ</li> <li>○住居の機能と住まい方</li> <li>○衣生活、住生活などの生活の工夫</li> </ul> ・衣服と社会生活とのかかわり ・目的に応じた費用や個性を生かす着用の工夫 ・衣服の計画的な活用と選択 ・日常着の手入れ ・住居の基本的な機能 ・安全な室内環境の整え方快適な住まい方の工夫 ・布を用いたものの製作 ・生活を豊かにするための工夫 ・生活の課題と実践
<b>D 身近な消費生活と環境 身近な消費生活と環境</b>	
<input type="checkbox"/> ゴミの分別ができる <input type="checkbox"/> むだづかいをしない <input type="checkbox"/> 表示を見て買い物をする	《学習の内容》 <ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭生活と消費</li> <li>○家庭生活と環境</li> </ul> ・消費者の基本的な権利と責任 ・販売方法の特徴 ・物資・サービスの選択、購入及び活用 ・環境に配慮した消費生活の工夫と実践
★これからの家庭分野の学習で学びたいこと・やってみたいこと★	
先生より	
1年での学習を終えて	2年での学習を終えて
3年での学習を終えて	
★3年間の家庭分野の学習を通して★	
先生より	
1年組 No.	氏名
2年組 No.	氏名
3年組 No.	氏名

#### 【関心・意欲・態度の評価のポイント】

小学校の学習を振り返り、さらに中学校での学習について知り、3学年間の家庭分野での学習についての見直しや目標を記載する状況の評価する。

◎小学校での学習の内容を確認し、学校での学習についてA～Dの内容に触れ、やってみたいことや学びたいことを具体的に記入している。(記述例)

小学校ではご飯とみそ汁をつくりましたが、中学校ではハンバーグや魚の調理をするようなので、作り方を覚え家でも作れるようになります。今から楽しみです。

○小学校での学習内容を確認し、中学校での学習についてやってみたいことを考え、記入している。(記述例)

5年生の時、ミシンの操作を習いました。中学校でもミシンを使って物を作れたらうれしいです。

△中学校での取組の写真や資料を見せ、具体的なイメージをもたせて、学習への意欲を高める。

ガイダンスで使用するこのワークシートは、中学校3学年間の学習の見直しをもたせ、意欲を高めさせるものである。さらに、ガイダンスの1時間だけでなく、項目や事項、または、題材や学年の終わりなどの節目ごとに記述させることで、学習を振り返り、これからの取組へ意欲を高めさせていく。3学年間継続して活用し、家庭分野の学びの記録とする。

## 7 事例7 家庭分野 生活の課題と実践【C(3)イ】

【計画・実践記録表】

【手順】

①生活の見直し

②問題を見付ける

③課題を決める

④計画

⑤実践

⑥発表

⑦評価

⑧改善

題名 ○○○○○○○○○○ 年 組 番 ( )

\*課題を見つけよう! (①問題点を見 ②どういう状態にしたいのか考える ③改善に向けての工夫を考える)

問題点	理想とする状態	改善に向けてのアイデア・工夫
例1:階段から落ちやすい(内容C)	安全な階段にする	手すりを付ける。滑り止めを付ける
例2:ビタミン不足だ(内容B)	ビタミンを多くとれる献立	緑黄色野菜を入れたみそ汁をつくる
例3:遊び道具が危険(内容A)	安心して遊べる遊び道具	角を丸くする。飲み込めない大きさにする。

課題 (問題点を絞り込んで) 【理由】

【実施日】 月 日 ( ) ~ 月 日 ( )

【用具・材料】

【計画・記録表】 ①手順を具体的に考え計画する ②確認・評価する ③修正する ④感想・反省を記入する

No.	手順と計画(予定)	修正計画	自己評価	感想・反省	チェック
1	例1:材料を揃える				
2	材料を切って縫いつける				
3					
4					
5					
6					

\*自己評価 (A:計画通り頑張った・B:頑張った・C:あまりできなかった)

【実践を通しての家族の感想】 【実践を通しての私の感想】

【写真・イラスト】

【相互評価】  
付箋 付箋

【先生から】

【修正改善】 例1: 材料を揃える夜でも光る、蛍光シールを目印に貼る。 【感想】

【C(3)イ】 <関心・意欲・態度>

【課題設定場面での評価をみる場合】

- ◆自分や家族の住生活をよりよくすることに関心を持ち、課題を主体的にとらえ、設定しようとしている。
- ◎自分や家族の安全を考えた室内環境に関心を持ち、課題を主体的にとらえ、快適な室内環境を整えるための問題点を解決するための課題を設定しようとしている。
- 自分や家族の安全を考えた室内環境に関心を持ち、課題を主体的にとらえ、設定しようとしている。
- △資料の写真やイラストを見せ、具体的なイメージをもたせる。

【B(3)ウ】 <工夫・創造>

【計画の場面での評価をみる場合】

- ◆自分や家族の食生活について課題を見つけ、その解決を目指して日常食又は地域の食材を生かした調理などの計画を自分なりに工夫している。
- ◎自分や家族の食生活について課題を見つけ、その解決を目指して日常食又は地域の食材を生かした調理などの計画を具体的に工夫している。
- 自分や家族の食生活について課題を見つけ、その解決を目指して日常食又は地域の食材を生かした調理などの計画を自分なりに工夫している。
- △掲示物や資料、ワークシートなどにより、再度確認するよう助言する。

【A(3)エ】 <工夫・創造>

【発表場面での評価をみる場合】

- ◆家族又は幼児の生活について課題を見つけ、その解決を目指して製作や幼児と触れ合う活動などの計画を自分なりに工夫している。
- ◎幼児の遊び道具の製作の成果と課題についてまとめ、課題を踏まえた新たな解決策を考えている。
- 幼児の遊び道具の製作の成果と課題についてまとめたり、発表したりしている。
- △課題のまとめ方を手順を追って確認させ、発表の方法を助言する。

記入に際しては、今までの学習を生かして①生活の見直しを行い、その中から思いつく②問題点を書き出す。問題点の中から、③課題を一つにしぼり、理由を明確にし、取組の動機を確認する。取組の手順を明確にし、よりよい実践のために④計画を立てる。計画に従い、家庭での⑤実践を行い、その後、取組の感想や反省を行ない、計画を修正し、さらに実践を続ける。学校での⑥実践発表会などでは、イラストや写真、献立表やグラフ、図などを用いて分かりやすい発表を心がける。その際、⑦相互評価や教師の助言から、もう一度自分の実践の⑧振り返りと改善を行う。

【発表時の教師用補助簿】

生活の課題と実践において、実践後の発表を行う場面で、生徒の発表を評価する際に教師用補助簿として活用する。

観点	生徒氏名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	40
		取組の内容										
課題が明確に伝えられたか	理由がはっきりしているか	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	解決のための工夫がされているか	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
発表の仕方	聞きやすい伝え方をしたか(声の大きさや速さ・姿勢・目線など)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	わかりやすい伝え方を工夫しているか(献立やトや図表の提示など)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

【相互評価】

生徒同士で、生活での実践を発表する場面や製作物の発表をする場面で、互いに評価し合う。評価は、具体的な言葉を付箋に書き込み、項目ごとの欄に貼る。その際、内容ごとに付箋の色を使い分けると分かりやすい。なお、相互評価は、生徒の学習への意欲付けや個人内評価として活用する。

評価の項目	①課題とその理由がはっきりしているか。	②具体的な工夫が考えられているか。	③その他 気付いたこと
付箋を貼る(具体的な言葉を記入する)	付箋 コメント	付箋 コメント	付箋 コメント

付箋について (よい点: 青の付箋紙 疑問点: 黄色の付箋紙)



## 第4 観点別学習状況の評価の総括及び評定への総括

### 1 評価から評定への考え方

学習評価には、学習指導要領の目標の実現状況を把握し指導の改善に生かす機能と、生徒の学習状況を検証し結果の面から教育水準の維持向上を保障する機能がある。一般的に、授業改善のための評価は前者であり、日頃の授業の中で行われるが、後者の生徒の状況を記録するための評価は、題材終了時など適切な時期や方法を検討して行うことが大切である。指導と評価の一体化を目指すためには、学習評価の二つの機能をバランスよく指導に生かしていくことが大切である。

ここでは、題材終了時、学期末及び学年末など、ある程度まとまった学習が完了した段階で、生徒一人一人の学習の到達度などを把握するための「総括的な評価」について考える。

### 2 観点別学習状況の評価の総括

題材ごとに総括した観点ごとの評価結果を基に、学期末及び学年末に総括する例を示す。

氏名		題材1	題材2	題材3	題材4	合計	平均	評価	備考
□□□□	関	ⒶBC	AⒷC	ⒶBC	AⒷC	16			①題材ごとの総括的な評価を記入する。
	工	AⒷC	A BⒸ	A BⒸ	A BⒸ	5	1.3	C	
	技	AⒷC	AⒷC	ⒶBC	AⒷC	13	2.2	B	
	知	ⒶBC	ⒶBC	ⒶBC	AⒷC	17			③点数を合計し、題材数で割り、平均値を算出する。
□□□□	関	Ⓐ				18	3.0	A	②A=3、B=2、C=1で数値化し、その合計を算出する。
	工	AⒷC	AⒷC	ⒶBC	AⒷC	12	2.0	B	
	技	ⒶBC	ⒶBC	ⒶBC	ⒶBC	18	3.0	A	
	知						3.0	A	④設定した判断の基準に基づいて学年末の評価を行う。 例 2.6以上→A 1.5~2.5→B 1.4以下→C
	知					2.5	B		

1 単位時間における授業で、多くの観点の評価をしようとする学習指導案があるが、題材の目標と照らし合わせてどの観点を重視するのか、題材のどの時点でどの観点の評価をするのか、評価方法や評価場面と併せて検討することが重要である。

### 3 評定への総括

技術・家庭科においては、教科の目標及び各分野の目標の実現を目指して、各項目に示す指導内容を、例えば、生徒の身近な生活と関連させるなど、指導単位にまとめて題材を設定して学習指導が行われている。また、学年内で技術分野と家庭分野の授業時数が異なる場合もある。したがって、常に客観的に観点別の評価を行い、その結果を題材ごとに総括し、技術分野及び家庭分野を併せて、学期末や学年末の総括をすることが大切である。場合によっては、各分野ごとに観点別の評価の総括をした後に、授業時間数等を加味して重み付けを行うことも考えられる。

観点別学習状況の観点ごとの評価結果の組合せで判断する場合、あらかじめ判断の基準を定めておく必要がある。例えば、「A A A B」となった場合、各評価にどのような評価の情報が付加されているのかによって「5または4」を判断する必要がある。

また、学習内容に対して関心・意欲は高いが、定期テスト等知識の定着に関して課題のある生徒の場合、観点別の評価では、「関心・意欲・態度」A、「工夫・創造」B、「技能」A、「知識・理解」Cとなり、この場合の評定への総括では、「4または3」が想定される。さらに、定期テスト等知識の定着に対して十分な成果があるが、課題の解決や評価・活用の取組が消極的な生徒の場合、観点別の評価は、「関心・意欲・態度」B、「工夫・創造」B、「技能」B、「知識・理解」Aとなり、この場合の評定への総括では、「3または4」が想定される。

このように、同じ表記をしたとしても、学習の実現状況には幅があることに留意し、蓄積した評価情報をどのように判断して評定に総括するか、判断の方法や手順についてもあらかじめ決めておく必要がある。

評価の組合せ	評定
A A A A	5・4
A A A B	5・4
A A B B	5・4・3
A B B B	4・3
B B B C	3・2
B B C C	3・2・1
B C C C	2・1
C C C C	2・1

評定における観点の総括の例